



リ 5
4895
1



674

リ5
4895
1

日本書紀辨書第一

去
水
五味均平蔵



日本古来割符ノヤウナル物アリテカシノ夏ヲハ心覺斗ニ記シ
タレ氏文字ハナシ夫故神代ヨリ人皇十六代應神天皇迄ハ
口傳^ニテ書キ傳ヘタル物ハ曾而無之^{十五年八月}十六代ノ時百濟國ヨリ
阿直岐^{アトギ}ト云者渡リタレ氏レカトシタル學者ニテナカリレユヘ
阿直岐ニ勅有テ汝カ國ニ汝ヨリ勝レル者ハナキカト尋玉フ
王仁ト云儒者有ル由答ルニヨリ荒田^{カテキツケ}巫別ト云者ヲ使トシテ
^{十六年二月}是ヲ^{意道稚郎子}見^ラル則皇太子ノ師トシ玉フ王仁論語一部子字文一部
持来ル日本ノ書物ノ始メハ此ノ二部也此人ニ梅ヲ見スレハ梅

ノ字ヲ書テ見セ竹ヲ見スレハ竹ノ字ヲ書テミセ是ヨリ日本
ノ人ニ文字ヲ教ル者初リ皇太子應神ノ禪リヲ受テ位ニツキ
玉フ時王仁之智有ル者ニテ暫時ノ間ニヨク和語ニ通シ梅ヲ
袖ニク、ミセチ難波津ニサクマコノ花冬ゴモリ今ヲ春
ト咲マコノ花ト云歌ヲヨミテ奏シ上ニ如是ウタヲ七讀ホド
ナレハ日本ノ人此時ヨリ手習ヲ仕初メ文字ヲ七書覺ヘタリ
是ニヨリテ昔ハ手習ノ初メニ必此ウタヲ習ハセタム也後ニ
イロハト云物出来シヨリ右ノ歌ヲ書ク變^{スル}條タルナリ清女納言
枕草紙八九ミコトニハワタリトホカラマモシ改書ニ手跡ノ未熟ナルヲ俗ニ机バナレ
枕草紙ニ物カ、ヲ変ヲ難波津ノ十三七賢(ストアリ)王仁カ
セメト云タレ也古今集序ニハワノコトハハ手習フ人ハハミセシケルト有ニツケテ

紅葉卷ニ難波津ヲダシワカクシテ侍ラザシメバト
像ヲ繪ニ書テ日本儒者ノ同祖トス今誤リテ是ヲ世ニ渡唐
日本僧入唐乃住徑山或夜天神出現曰吾是日本之昔相承而受之衣ト菅原長親ノ
天神ト号ス王仁カ墓ハ河内國藤坂村ニ在リ八幡山ノ北也
西聖記ニ出タリ虚説也薩天賜雜詩^抄選^葉ニ題^{天満宮}無常談法現神道千里飛梅
王仁ヲ誤リテ土民是ヲ鬼ノ墓ト云フ一夜松万変交醒雲吐月
親音寺裡一寺鐘
東國通鑑ハ朝鮮ノ史記也其書ヲ考ルニ王仁ガ日本(渡リ
タルヨリ凡フ六十年程後ニ百濟國文字ヲ書習ヒタルヤリ
書タリ然レハ百濟ハ朝鮮ノ中ニテ朝鮮ハ殷ノ箕子ヲ封シ
タル國ナレハ上代ヨリ文字ナキ変不能朝鮮モトヨリ漢字
ノ外ニ國字アリ是ヲ諺文ト云日本ノ假名ノヤウ成物ニテ是
ヲ点ニ付テ日本ノヤウニカ(リ)点ヲ付テ諺國ナリ王仁此ノ

風ヲ日本へ移シタル故論語モ不讀下訓讀ノヤウニ成タリ
邊後ニ中華ヨリ袁晋郷ト云者四十五代聖武天皇天平ノコロ
渡リテ能音義ニ通シ是ニヨリテ昔大學子寮ト云テ建テ學
者ヲトリタテモフ時管原氏ヨリハ袁晋郷カ傳ヘシ音義ヲ
教ヘ大江氏ヨリハ王仁カ時ノ音義ヲ傳フ其望次才ニ此二家
ニテ習ヒタル也コレヲ江音管音ト号ス漢吳ノ音ト云義
ニテハナシ此神代卷ハ右ノ袁晋郷未渡先ニ成タル書ナレハ
音義皆江音也史ヲ今テノ學者者管音ニテ取ハス故義理
悉違ユク也

王仁文字ヲ傳ヘタルハイニ夕記錄ヲ篇ト云程ノ古又ハナシ日本
書紀ヲ案ルニ才十八代履仲天皇ノ御宇ヨリ史ヲ置直アリハ
此時ヨリ其當時ノ書ハカキトメタル成ベシ十七代以前ノ書ハ
但口傳ノ終ニテ有タルナレシ

三十四代推古天皇ノ御時聖德太子ト蘇我馬子兩人へ仰付
ラレ古ヘヨリノ書ハ口傳ノ下ニ記シ十八代以後ノ書ハ其時
ノ記文ニ依テ全備シタル國史ヲ撰テ此モ旧書紀ト云名目

ハナシ日本書紀ニモ前代旧辭ヲ集メ記ストアリ然レニ此書
大化ト号ス年号ノ起原也四十二代文武天皇ノ大宝ヲ始トシ
三十七代孝德天皇九年蘇我蝦夷其子入鹿共ニ亡ル
ホレテ不知故曰大宝イニ奥州献金者四十六代孝謙即位當
天平三年故改元天平勝宝欽

至テ古ノ記録ハ馬子ヨリ其子蝦夷傳ハ傳ハ居タル
ニ我カ家ニ火ヲ付テ焼トキ記録不殘焼亡シタリ王仁ガ
子孫船史回叙ト云博士走り入テ焼殘タル國史斗リヲ
フチフヒトエサカ
取得タル由日本書紀孝德ノ卷ニ見ヘタリ然レニ今聖德
日本書紀皇極紀曰四年正月己酉獲我臣蝦蟇等臨誅志燒天皇紀國紀珍寶船史惠釋昂
太子獲我馬子撰スル所ノ書アリト前代旧夏本紀云書物
二族取所燒國紀而奉中大兄云
十卷世ニ板行セラシ古今ノ此者此ヲ信テ用ヒ来ル北畠
大納言親房郷一条禪閣兼良云ヲ始メ神書ヲ著シテ
何シモ此書ヲ引キ五ノ吉田家ハ云ニ不及伊勢カ流ノ輩
庶加翁壺井安左衛門一ニテモ著述ノ書何シモ是ヲ證

引ス案ルニ此書ハ旧キ偽書ニテ可信モノニ非ス其子細ハ船史カ取出
シタル國記斗リナルニ今旧夏紀ト云モノ天皇紀天孫紀國紀
國造紀ニ至迄悉ク全備シテ桓武天皇以後ノ夏十ト多ク書
載セ桓武以後ノ年号十トモ見タリ三十四代ノ代ニ撰
シ書ニ何ノ五ノ代桓武以後ノ夏ヲ記サシヤ其上日本書紀ハ
ソレヨリ遑後ニ撰シタル書ナルニ旧夏紀ハ却テ日本書紀ヨリハ
妻ク聖德太子ノ撰トアルニ聖德太子ノ女德高キヲ書キ
載セタルモ不審也其外古文ニ非ル次才ヲ論シテ旧夏紀偽
書考ト云物ヲ二十二年ニ前
延享丑戌辰年 予是ヲ著シ十九年
ヨリ指ス下皆也

己初板行セシ中臣板古義ニモ旧夏紀ハ偽書ナル由アラシ
并シ置タリ十年斗己前江戸太宰弥右衛門神道ヲ惡ク
書タル辨道書ニモ旧夏紀ハ偽書也ト載タシ凡是ヲ偽書也
トスルハ予ヲ以テ始メトス神道俗學ノ輩旧夏紀古夏紀日
本書紀是ヲ神道三部ノ本書ト号スルハ淨土門ノ三部經ニヨ
リテ名ツケタル哉旧夏紀ハ絶テ無キモノト知ルヘシ

外ニ又前代旧夏本紀トテ四十卷ハ板行シ三十卷ハ写本ニテ傳リ
シ是コノ實ノ聖德太子ノ本書也トテ人ヲ惑ス世ニ大成經ト
号ス是ハ本國甲斐後美濃ニ住セシ黒瀧ノ潮音ト云禪僧

ノ偽作ニテ伊勢内宮ノ水上ニ伊雜宮ト云社アリ俗ニイ
ソベノミヤト云フ此禰宜共ニタノレテ今ノ内宮實ノ
天照太神ニアラスイソベノ社ガ實ノ内宮ナリト云フヲ
書コメタル者ニテ是ヲ世ニハヤラセ内宮ノ參詣ヲイソベニ
トラントセシタクミフナルヲ内宮ヨリ江戸へ訃ハ常憲院殿
御代寺社奉行衆穿儀ノ上偽書ニ波シ四十卷ノ板本
並板本共ニ京都町奉行所へ取上ラレタレ共今ニ是ヲ信
スル者アリテ寫本ニテ七十卷寫シ傳フ聖皇本記詠力
本記十ト一巻一巻題号アリ折節ハ禪僧ノ書ナル故當位

即妙ノ論有テト通リテハ面白キ様ナル也有故誤リ用ル
人アリ必信ベカラス

今ニ是ヲ信スル者ニ對シテ右ノ書偽書ナル證文ヲ聞ント云ハ、
右ノ七十二卷悉ク是トカ此トカカクヘキ処ハ這ノ字ヲ書タル
処多シ這ノ字ヲコレコノト指シスコトバニツカフ也又ハ禪家ニ
テモ宋朝已後ノ俗語ニシテ古書ニハナキ也又ナリ聖徳太子
ノ時ハ隨ニヤタルソノ次ニ唐ノ代有テ宋ニ移ル太子何リ這ノ字
ヲ用玉ヤト答ヘシ此一也ニテ偽書ナル也又ハ顯然タリ

右旧書紀ト日本書紀トノ間ニアラハサレタル書アリ是ヲ古事

紀ト号ス上中下三卷トス神武天皇ノ皇子神八井耳命

太上同シ
ノ子孫^{ヲカ}ノ朝臣安麻呂撰スト有テ安麻呂ノ自序有其

序ノ趣摘要ノ云時ハ聖徳太子ノ時ノ旧事紀亡タルニヨリ

日本ニ紀錄不傳四十代天武天皇是ヲ憂玉ヒテ旧書紀ノ

未^シ世ニ有タル時ノ人ノ存生^{ゾシ}ニテ旧書紀ノ趣ヲ覺タルカ死ノ

ハ弥古傳世ニノコレニシトテ年若者^{ワカキ}ノ中記憶ノ強キ者ヲ

尋玉フニ神代天^{カミ}鈿女^{ニギハヤヒ}ノ命ノ子孫^{ヒト}禰田^{ニギハヤヒ}阿礼^{ニギハヤヒ}トテ其時

年二十八ニテ物覺ヨク才力有者也古老共^{トモ}ト會サセ口

傳ノ通リヲソレニ覺サセ置玉ヒシニ四十三代元明天皇ノ頃

ハ六十ニ餘リタル故是カ死テ云何ト博士多ク安麻呂ト合
セテ阿礼カ口傳ノ通りヲ書記サセ玉フ書此ナリト其書ノ
成タルハ和銅二年中ノ体ニ書タリ

今案スルニ古史紀三卷ノ本文怪キ史ノミ多ク云何口傳
ノ書ナレトテ其意得難キ史有古史紀ニ神武天皇百
廿七史日本紀ニ百廿七史第ニ代綏靖天皇古事紀ニ
四十五史日本紀ニ八十四史第ニ代安寧天皇古事紀ニ四
十九史日本紀ニ五十七史第九代開化天皇古史紀ニ六十三
史日本紀ニ百十五史才惣テ如是相違甚多シ古史紀勅命

ニヨリテナリタル書ナルニ何リ如是相違有ニヤ又序ノ文章
ト本文ト文勢甚相違シテ同作ト見ヘ難シ藤原明衡撰
タル所ノ本朝文粹ニ古書ノ序ニ比載タルニ古事紀ノ序ヲ
卷頭ニ載ヘシキ様モカシ安ホル処序ニ後ノ者ノ加ヘタルモノ
ニテ本文ハ朝撰ノ書ニアラス古傳ノ終ヲムカシ出ノ様ニ民
間ニテ書タル書ト見ヘタリ然レハ質素ノ書大古ノ記録ト見ヘ
テ古風ナルヲ多ク日本書紀ヲ讀者ノ指南トナルヲ多ク信
用ノ取ヘシ序ニ疑シキモノ之異國ニテモ如此記録ヲ野史
ト号ス朝史ニ非ル心也古史紀ハ大古ノ野史ト見レハ

能スル也此等、他流ニテ曾テ不知也

四代天武天皇八年中臣ノ大嶋齋部コヲト小首コヲト已下多

學者、仰付ラレ國史ヲ撰ニセシト云又日本書紀天武

ノ卷ニミタレ其書今ニ不傳業ニ此日本書紀ヲ編

ノ牒稿ナルヘシ

續日本紀四十四代元正天皇養老四年ノ卷ニ日本書紀

卅卷並ニ系圖一卷ヲ一品舍人親王奏スト有此等ヲ

以テ考レハ天武ノ時ヨリ編始カケテ此時成就シタルヘシ

外ニソレヨリ前舍人親王ハ日本書紀ヲ撰スヘキヨシ勅

有タルヲ不見舍人親王ハ天武天皇第五ノ皇子ニテ此

人直ニ撰玉ヲニ非ス博士共ヲ集テ此ヲ撰スルヲ監察ス

ルノ役ニテ監察トハ奉行ノ義也是ヲアミタルハ多ノ安

麻呂紀ノ借人以下五人儒者也俗學者ノ輩誤テ直ニ舍

人親王ノ撰シ玉ヲト説ニ不見旧記之失也舍人親王ハ

今城洲藤ノ木林ニ祭リテ神トス謚ヲ宗道盡敬皇帝

ト号ス ト部家ニト子リト讀伊勢流ニヤドノ親王ト

讀岳加流ニイ又ヒトヨム伊勢流ハ伊勢ニ神宮方書

ト云秘卷アリソレニ假名ニテヤドノ記ノアレハ是之造成

證拠ト云右神宮ノ方書甚秘シテ人見セザル者ナ
レハ予モ多年懸望ニ思ヒ延喜子三年ノ春外宮太神
宮ノ御文庫ニ於テ神人等ヲ集講談セシ時今ノ長
官松木三位ニサシク所望メ一覽スル処ニ成程其書ニヤ
トノ親王ト云古又アリ然レ此ハ秘テ外ヘ見セ又筈ナリ
其書ノ中ニ天照太神ハ三途河ノ老媪ノ化身ナリトアリ
是ヲ以テ見レヤトノ親王取テ不口之ヲカ著シ宮川日記ニ
其古又悉ク記シタリ 靈元院法皇ノ勅ニ京極ノ宮
家仁親王ヲソレニテハ藤ノ木林ニテウヘシト仰アリヨリ

京極殿ヤカヒト親王トヨニサセ玉フ然レハ舍人親王トイヘ
ヒト、讀ニ極リタリト岳加流ノ北軍ノ證拠ナル所ナリ法
皇ノ仰トイハ厄怨ナカラフ記録ニ糾メ不合時ハ採カタシ
今舟橋伏原澤ト云公家衆清原氏ニテ舍人親王ノ末
也此家ニテ舍人ト讀然レ其子孫トシテ先祖ノ名ヲ呼
莫ナレハ是愷成義ト近年迄ソレニ極置シカ能思ハ舟橋
モ中頃吉田ヨリノ養子ナリトナリトヨム時ハ官名ニ吉
田ノ説ノ清原氏ハ入タル者ト覺ユ故ニ信ニ難シ加様ノヨミ
ノ知レザルハ音ニテ讀カ故實ニテ白川家ノ先祖清仁親

五十トモスニヒトキヨヒト兩説也セサル故今セヒニト讀管原氏ノ先祖清公キヨトモキヨキミ波シ難クセヒコウトヨミ来レリ舍人モ波セサレハ音ニテ讀ヘシ 續日本紀ニ日本書紀三十卷

十卷并系圖一卷トアリ然ルニ今ノ本神代上下二卷神武ヨリ四十一代持統迄北八卷合セテ卅卷アリ此レニヨリテ好変ノ者系圖ト云ハ別ニ有テテ偽作シ名寫本有日本書紀人皇ノ卷一卷ニ三代ツマリ古本ハ神武ヨリ持統迄ヲ卅卷トシ神代ヲ一卷トメ其内ニ上下ヲ分タル者ニテ系圖ト云ハ外ニナシ神武天皇人王ノ最初トシテ始テ

大和都シテ其御出生ノ系圖ヲ書ノベ三種ノ神器ノ縁起ヲ記シテ神代ノ卷トス續日本紀ニ系圖一卷トアルハ即コノ神代卷也 ○神代卷ニハ縦横ノ見ヤウノ習アリ世ノ

神道者不知是故ニ神道ノ本意ヲモ失ヒ神紀ノ文面ニモ通シカタル舎人親王ノ取ヨリ六七代モ此変ヲ知りタル者モ多カリシカ中世以後知ル者絶テ其ワカナ毎リシガ此系或部ト

云女是ヲ見出シ日本紀ノ縦横ニナフテ源氏物語ヲ著ス桃草紙才六代宮ノボラセヘキ御使ニテハ内侍ノステイリ玉ヘリ願書ニ左馬權守時特夫故源氏物語ニハ縦ノ卷横ノ卷ト別レテアリ御堂ノ関ノ白ノ女也一条院源氏物語ヲゴラシテ此系式詳ハ日本紀ヲコフ能見タリテトノ玉ヒシヲ妬道長公是ヲホメテ紫式部ヲ日本紀ノ局トヨバセ玉ヒシニテ式詳ヲ日本紀ノ局ト云シ人成ヘシ哥人也

夏四辻ノ宮ノ源氏物語ノ河海鈔ニ出タリ是一条院ノ御宇ノ
夏ナルニ其後凡ソ千年ニ近クナルニ是ヲ見出ス者ナク夕テヨ
コノ論ナク是ヲ叙スル故日本書紀ノ要メノ縦横ニ暗ヲ以テ
悞傳フル説甚タ多シ予不敏也ト云ヘ凡偶此夕テヨコヲ見出
シテ叙スル故大槩日本書紀ノ古義ヲ不矣カト覺タリ
縦横ノ見ヤウハ甚タ秘傳ノ夏トス是ハ傳ヘテ七撰リニ人ニ
傳フベカラス甚秘スベシ其見ヤウトイフハ此書ニ限りテ日
本書紀ト書ノ字ヲ加ヘタルカ眼ノ付処也秘夏ナシハ辨

書ノ外ニ口傳スヘシ ○五十二代嵯峨天皇弘仁ヨリ六十二代村上
天皇康保迄七箇度禁中ニ於テ時ノ博士日本書紀ヲ講セシ
夏アリ何シモ儒學ノ博士ニテ別ニ神道者ト云者有テ講シタ
ルニテモ毎シ又祢宜神主ノ講シタルニテモ毎シ祢宜神主ノ外
ニ武家百姓町人ニ神道者ト云者凡ハ百四十五年来ノ夏
ニテ夫ヨリ古キ書ニ神道者ト云者ハカワテ毎シ右七箇度ノ講
叙ノ時ノ博士ノ講説スヘキ私号ノ書七部アリ是ニ年号
ヲヨビソヘテ弘仁ノ私記元慶ノ私記ナド、中臣彼古義ニ引
用ル書目ニ見ヘタリ數度ノ兵火ニ何モ亡ヒタシ凡康保ノ私

記ノミタニク傳ル是七テ度ノ終リノ私記ナレハ其書ニ初
メ六テ度ノ私記ノ起モ引キ用ヒテアリ此康保ノ私記モ甚
大切成ル物ニテ民間ニハ希也 ○七テ度ノ講談何レモ

講シ昇テ禁中ニテ竟宴ト云フ右リ官位アル學者ヲ集メ
テ日本書紀ニアル如クノ神ノ名又ハ天皇ノ名勝レタル人ノ名ナ
トヲ題ニ採テ哥ヲヨミテ夫ニ洋ヲシタル物ニテアレハ是モ六十
代醍醐天皇延喜五十七代陽成天皇元慶ノ竟宴集ノ傳
テ外ハ不傳此ノ延喜元慶ノ竟宴集モ写本ニテ甚秘スル
物也 ○右私記ノ意竟宴集ノ意ヲ得心シ日本書紀全

部ヨリ始メテ六國史ヲ能ク解シ延喜式大宰令貞觀儀
式等ヲ考テヨミガレハ神代ノ卷ノ秋ハナリガタキモノ也

日本ノ六國史ト云ハ日本書紀續日本紀日本後紀續日本後
紀文德實錄三代實錄此ヲ合セテ六國史ト号ス其内日
本後紀ハタヘテ無シタニク写本ニテアルハ偽書也不可用其
カハリニ成ル書アリ別テ貞觀儀式十クテ不叶者也旧儀
式ト号スルモ全詳十卷タニク写本ニテアレハ中半ハ偽作ヲ
加ヘテ新写ノ本難用多クシト知ルヘシ能キ本ハ甚大切也
其外ハ万葉集古今集新撰姓氏錄十ト云書ヲ考テ

レレヘシ ○神代卷古傳ハ甚ダワツカ成ルモ故是ヲナカク
書カザリヲ付シタメ佛書ノ文儒書ノ理ニテ書タル所々多シ
夫ヲヨクヨリ分ケテ見ルガ肝心也ナカラズ有ハ一部ノ本体
ヲ失ヒ化^ダモノ咄ノマウ成テ古義ヲ失フベシ故ニ予一々其ノ
カザリ付タル所ヲ本書ヲ吟味シテ叙シ其條箇ニテ各是
ハ十二ノ文ヨリ取タルト叙スベシ俗學ノ輩是ヲ不弁神代
ノ卷ト云ハ一回ニ神代ヨリノ傳ト心得テ説クモ其怪ク其
説モ穿過テ本文ノ意ハ不^レ稱
右神代卷祭禰ノ叙也

日本書紀卷第一

日本ハ吾カ國子書紀ハ以^テ紀皇統ヲシルスノ本紀書ハ面テ向
カハラズ實ノ次第ヲ載ルノ書紀ヲ縱^{タテ}トシテ本文ハ段ニア
ゲ書ヲ横^{ヨク}トシテ一書曰トノセタリ一書トハ尚雜傳ニ曰イハシ
ガゴトシ卷ノ第一ハ後人ノ置タル十ニ祭禰ニ七并スル如ク神
武己後今ノ本廿八卷トスルハ古來卅卷ニシテ別ニ系圖一
卷ト云フハ此神代上下ノ卷可成是モ一卷ニテ古來上篇
下篇ナリシヲ後人上下ノ卷トシ日本書紀第一第二ノ卷
トシタルト受工俗學者此書ヲ訓^クノミニ讀テ音^{ハシ}ニテ讀^{ヨム}モ

ヲ不知カヘリ点アリオキ字アリ其上訓ニテ讀ヘキ一ハナニ
ナニ此ニ何ト云ト翻釋ヲ付タリ此ニト云ヲ此ヲトヨミテ漢字
ヲ和語ニ釈セシ子細ニウトクスベテ和訓ニスルモノトノ傳
ヘ来ルハ賤シキ説也古来音ヲ本トシ國名神名日本ノコト
バナドマム一ヲ不得ハ和ヨミニシタル物トニヘタリ雖然俗學者
和訓ニシテ一ニ其訓ニナラヒ有ル一トスレハ本意ニハアラフ子
氏音ニテ讀一ヲ面トシシバク俗ニ從テ和ヨミノ釈ヲモナ
スヘシ ○日本是ヲマミト、訓ス一説マミアト一説ヤミト、
又云山戸一
一ル義案ルニ神武ノ卷：今ノ和訓ノ変ヲ青山四周トア

シバヤミトフノ心神武ノ都ノ國名天下ニ通シテ終ニ六十
六易及二嶋ノ惣名トナル変々トヘバ漢ニ都シテ漢ノ代ト
云ト同例 ○書紀ニ字カケテフミト訓来ル一説鳥ノフミ
タル跡一説文ノ字ノ轉シタル音フミトナル一説コトバニテ云ハナ
ガ、ルベキ一モ文字ニテカケバワヅカノ間ニ多義ヲ含故フクミノ
中畧フミト云ミ、
又應神ノ御宇百濟之表無礼道皇子怒之彼表按地以足踏之云ミ
ハ履ノ義コトバ、印トシガタシ書タルモノハ印ト成ル論語ニ曰
言可履礼記ニ踐言謂善行何レモ云タル一ノ證據トナルギ
ナリ今俗語ニシルシアル一ヲフマヘノアル一ヲ云ト云ハ此義也

書ハフヘト成ルモノ故ニフミト云此義ヲ可取

○卷一キト

訓ス古来ハ一キモノ故ニトイヘ氏夫ハ卷ノ字註ト云モノニテ
訓ノ詳ハ非ス一クハ種ヲマク如ク白紙へ文字ヲマキフケ
己ニマキ繪ト云ニテシルベシ ○^{ワイテ}第一ワイテフハ一フニフニフ

ナド云フニテソレヲ次第シテ出スノ心 ○^{ヒトフ}一天地ニ並ビ各キ

モノハ日也トフハ和語ヒトフハ日ノ並ビナキ物ニ譬フ夫ニ相

對スルモノ有レハ蓋アルノ心ニテニフ中へ物ヲ入レハ實ヲ生シテ

カヤリニ數語ヲナス也卷第一三字ハ後人ノ筆トオボシキナ

カラ俗學者ノ訓ヲ論スル一故ニ爲是註ス是ヲシリテ音

ニ讀ハ好シ不知ハ難者アル片サシワカユ者故訓ヲソヘテ

ヨム也 ○日本ノ旧キ書ニハ本語梵語漢語歸語蠻語ト

アリテ和訓ト云一無し日本ノ語ヲ本語トアリ是吾本國ノ

語ナレハ也今和訓和語ト云モノ是也梵語ハ穠ヲミシラ

ト云ヒ水ヲアカト云タグヒ日本ニテモワカヒ来リ歌ニモミシラ

トヨミ舟ニアカバ入りシナド云梵語也漢語ハ菊馬ノ

類也馬ハ非和語江音ニテマハマヲヨビ出ス音也此外朝

鮮音有リ是ハ甚タ多し而余是ヲジトセニ氏ヨムハ朝鮮

音ナリ和語ニテモ漢語ニテモ無し唐音ニテハル也密雲語ト

云ハ一向ノエビスコトバ也エゾエトバタツクンコトバナド多クエタ
ルモアリ和詔ト思ヒテ天ヲソラトヨマセタルガ梵語ナリ
梵ニアソラト云神代ノ卷ニソラト付ケタル所多ク和詔
ト心得タルハ僻也此類ヲ差別シテ一ニ釈セサレバ和訓
ノ本式ニハ不叶也今某字某訓ニ依テウキマヘ説ヘシ

○^{カミヨノカミ}神代上 佛家ニテハ一世二世ト云ヌヲ一代二代ノ一ニ用
ユソシハ子孫ヘス傳故也子孫ヘ傳ユル方ヨリイヘハ父一世子
一世孫一世何世ノ後胤トカゾユル也又^{ダイ}代ト云ハ世ニカハラス其
國ヲ継家ヲツグ次弟ニテ云此ニ譬言ヲトルニ士一人有リテ三子

ヲ持ツ父死テ一男家ヲツギ是ヲ二代トス子無キガ故ニサレ
次ノ弟ヲ子トシテ令継家は是ヲ三代ト云又子無キ故末子ニ
家ヲツガセ是ヲ四代ト云ヘ凡實ニ父ヨリハ二世也代ハカハル
トヨミ世ハツグトヨムト心得ベシ本文ノ紀ハ神代ノカキヤウ也
ヨコノ一書ハ神世ノカキヤウ也夫故此次ニ神世七代トカキ
タル処有リシカト親ヨリ子トウケ傳ヘタルヌヌギレナク七代
トノヌヌ也世ト代ト並ベテ書タルニテ可知神代トハ跡ヨリ祭ル
代ト云フ也存スル片ハ人ト云ヒ祭ル片ハ神ト云フ神武天皇ヨリ
祭ラセ玉フ神代ヲ上下篇ニ分ケテ伊弉諾伊弉冊國ニヲ

生テ天照大神ヘユヅリ天照大神御子無キ故御弟素戔
鳴尊ノ御子ヲ養フテ天子トシ夫ヨリ天照大神ヲ位ノ元祖
トシ素戔鳴尊ヲ百王血脉ノ祖トスル故素戔鳴尊ノ御弟
迄ヲ上篇・記シ天照大神ノ御孫西國ヘ下ラセ五フテ日向ノ
國ニ三代都ヲナカレシヲ下篇トシタルモノ也 神 カミト
訓スルハカ・ミノ中畧トイヘ氏不當日ノ見ル処ヲ恐レヨトノ教ヘ
三ツ日四ツ日ナトヨミテ日ヲカクヨム也是ニ依テウヤマウモノヲ
皆カミト云鬘ハ人ノカミニ有リ上モウヤマウ義國ノ守ナトモ
百姓ノウヤマウ義祇ト紙ト字似タレニ依テ誤テトリ子ガヘ

テ紙ヲモカミトヨム也 代 竹ノ節ヲ竹ノヨト云モヘダテ

ナリ三日四日五日トヘダツルモ其中ニ夜アル故也是ニヨリテヨト
云ハ何ニテモヘダテト成リ一代二代モヘダテノ義ト和訓ハ可被ス

○ イニヘアヌフチ 古天地未割 ワカレ 天地開闢ノ説ハ跡ヨリ付タルモノニテ天地開

闢ハ如是ト格換レルモノハ不可有天文家ノ輩ノ説天地運斗
ノ義ニ於テハ佛家儒家其外諸子百家ノ説ヨリモ能理ヲ尽セリ
算術ニカケテヲシタタルモノ故也其外ノ説ハ空キ理今日ヲ以テハ
カリテ見ル思ヒヤリノ説ニヲ算用ニ不懸故ニ如是ノ理アリテ
如是ノ体ナシ雖然日月星斗風雨震雷イカ斗ノ變態モ理

尽ニスハシ開闢ノ説ニライテハ天文家トイハレ今日ヲ以推定スルテ
ニテトリシマリタル説ハナキ筈也子ニ開キ亥ニ閉ルヤト云説アレハ
ソレモ支理ヲ考テ述タルニテ論ナシ佛無始無終ト説セ玉フ
モノハ開闢ノ的論其上有ヘカラス是以支那ニモ古書開闢ノ
説ヲ不洩故漢高祖ノ子ニ長ト云アリ長ノ子ヲ安ト云フ劉氏
ナレハ劉安ト号シ淮南王ニ封ス書ヲ著シ世ニ傳フ是ヲ淮南
子ト号シ世ニ一篇アリ其第三篇ヲ天文訓ト号ス此天文訓
ノ始ニ開闢ノ事ヲ説ク開闢ノ古ハ此書カ始ニテ夫ヨリ後ノ書ハ
次第ニ異説モ廣ク成タルニ右天文訓ノ開闢ノ説ヲイサカ文ヲ

改メ俗耳俗眼ニモ通シ安キ様ニシテ神代ノ卷ノ書ノ首トス聊カ文
ハ變レレ於義易ルヲナシ □ 俗學者説ヲイシテ云日本ノ天地
開闢ト異國ノ天地開闢ハ甚相違アリ日本ノ日月ヲ以支那天竺
ハモ及ホシ照スヲナレハ日本ノ開闢ハ支那天竺ヨリハ甚古シ何ソ同
理ト云ヤ故ニ發端ノ文具文ハ淮南子ニカレトモ意味ハ不借
淮南子ト心ヲハナレテ讀カ神道家ノ傳習也ト云此説甚イヤシ
クセハキ説ニテ當流不取此ヲ日月日本ノ為トテ出ニモ非ス天竺ノ為
トテ出ニモ非ス頼テモ出不頼モ出ツ天地アレハ自此日月星辰
アリ天地開闢ト時ニ不問何ソ前後有シヤ其教ノ開クルト不問

三前後有ヘシ故ニ天地開闢ハ万国同シト云フヲ可ト知ラス為ニ淮
南子ヲ借テ開闢ノ文ヲナス淮南子ヲ借シハ淮南子ノ心ニテ
可釋道開闢ト不開ハ遲速アルヘシ天地ノ形開闢ニ前後
アリト云ハソレコソ神道者一家ノ説ニシテ他門ニ請取マシキコ
故ニ本文淮南子ヲカケテヲシ出シテ公ニ考ヘシ神道者ト
屈ノ論ヲナスヘカラス 口 古ハ此古ハハ量ナキ久遠ノ義淮南子
ニハナキ字ナレト日本紀撰者ノ加タルモノニ和語イニシヘ惣メ
方ノ字ヲ古事紀万葉集ニト讀セ万葉ニハ性方ト書テ
イニシト讀セタリ今俗ニ我方ト云言ト同ク性方リタル方ヲ云ニ

惣テ和語一ニ陰陽備ルニテハナレト大ナルモノニ成テハ陰陽ノ數備
リソロヒタルハ陰ハシタルハ陽ナリ夕トヘハ日火ハシタルニテ陽ナリ
月水ハソロヒテ陰ナリ日ノ始テ出ル頭ヲヒカシト云ニ音ニテ陽ナリ
日頭ノ心ナレト略シテ陽語トスミナシ能トヒテ孰スル方ナリ
是モニ音ニテ陽ナリミナシ心日ノ明ナル方ヲ云日輪ノ光明遍照
十方世界ノ方ヲサス日已ニ入ル方ヲ陰ニテニ音ニシト云是モ日ノ
イニシ心ナレトイヲ思答ノニ音トス然レハ日ノクアラサル方陰至極
故夜國ナト云國モアリ是以ウラクキタナキ心キタナキノ羊語ヲ以
テキタト云キタナキモ四音キタモニ音陰ナリ人ハ南面スルヲ体ト

然レた日ノタル方三音陽ニメ右ニ三音陰ナリ日ヲニキル方ニ
サレバイニシヘト云モイハ息ニカレ割イキヌルムライヌルト云息
ヲソクカ如クナルヲイソクト云息ニヒビキアルヲイビキ云イニシモ
天地ノ氣去テイクハクノ日能西へ去タル方今日ヨリハハカリ難ヲ
指ノイニシヘト云此一字ヲ上ニ添置テ淮南子ノ文ヲサソヒ出ス

○天地ハ形ヲ以テ云ヒ陰陽ハ氣ヲ以テ云ヒ天アレハ陽有地有陰

男女是形

アリ地ナケレハ天ナシ

水火是形

此發端ニツイテ天ハ天神地ハ地祇ナト、本文ニ背ケル説
ヲナスヲ取ヘカラス夫故天地ハ未割ト未ト云字ヲツカヒテ陰陽ハ

不分トヤスラカニ書タリ陰陽ハ天地ニツレテ分ル、モノナレハナリ割分ノ

二字タツナル物ヲニツニサキワケル孰少ナルヲ天地ト陰陽ハワケテ

ツカヒタレハハ、和語ニツイテハ、天ハアール詠本トアト訓スメトト

通スル故アノモト云スヘテ和語ニ上ニアトヲケハアカル語ニテアカレアカ
アナタ

キハクキアリ勝テ陽色也アキラカアホシアルト云モ陽ノ強コトハ今

日本ニテ荒ヲアラシト讀ハ字義ヲ知又誤也支那ノ書ニテ荒ノ字

アラキ義ハ少モナシスサミヤフレソコ子タル義ニテ荒廢ノ義ツカヒ

タリ人ニ住マ此家アレタリナト云ハ叶フアラ男アラ物アラ神

ナト云ハ不叶ソレハ剛者ヲアラフモノト讀ヘシアラ神ト云ヘキハ

危アマウシ

延喜式ニモ令ニモ現神ヲアラミカミト讀セタリアルアリ
 改新秋飽アタラモノアミタ阿房アキレハテアカリモノアツパレ餘
 アツシナトトカクイヤシカラ又音ノ母トナルニ陽音ニテ丹
 ヲモニト讀アリアカムルニニ子ニ地方水ノ音陰ナリア子ハア
 カムル陰ナリ如是ニテ天ヲアハレアメレ云陽有余ト云ニ
 天ハ大ニメ大地ヲツム是以アル訓ナリ ○地 本文ニモツキ
 ニ地トナルトアリツキノカヘシキニ然レハツキハツキノ畧語トシレシ
 未割ト一ツナル時ハ自他ノ別ナシ割ルヨリ我ハワレ彼ハカレトナル我
 彼ノ中畧ヲワカレト云天地ニダ一團ニメ天ハ天地小地トワレカレトナ
 ラカル義陰陽天地ハ形ノ物故天ヲ下ニ置テハ不瀟然ト天氣ハ
 下リ地氣ハ上リ其昇降ノ氣ニテ萬物ヲ生スツレ故易ニモ天地否
 ノ卦トニテ物ノ通路ノナラヌフサカレ卦トス又地天泰ノ卦トニテ
 是ハ形ノ天地ニテハ氣ヲ昇降通用トコホラサルヲ指テ
 泰ノ卦トス大吉ニ定ム此処ハ直ニ天地ノ形ヲ説バ地天トハ不置夫故下ニ
 陰陽ト置テ地ノ陰ヲ先ニシ天ノ陽ヲ後ニス然レバ天地位ニ昇
 降ノ氣未定其古ヘテ考レバタトヘバ渾沌トシテトモ ○陰陽不
 分渾沌如雞子 渾沌ハ水大ニシテ差別無キノ鬼渾ハスフル
 ト訓渾無下云時ハ物ノ不分ノ義也方ナル物ハ大小任ニワカ
 ズル処アリ渾沌ノ不分ヲタトヘテ云ク一圓相ニシテ故ニロカレタリ

ワカレハロカレタリトゴトクトリノコノ
 渾沌如雞子

メラサカレ
 ○陰陽不

ト訓ス鶏子ハ鳥卵ヲ云フ必シモ鶏卵ニ限りタルニハ非ス鶏ハ家
ニ畜^{カフ}モノニテ^ニ度ノ鳥ト云心ニテニハトリトモ云フ常ニ畜^{カフ}モノナレ
故鶏ノ字ヲ書タリ鳥ノアヒツルミテ其精気ノタマリコリタル
ガ卵ト成ルタマリコルノ略語タマゴト訓ス此タマゴト云物マカテ
カヘラントスル活気内ニコメタリ然レカヘラザル時ハ但^タ水ニテ其形ヲ
不生クラクコモリテ^{イキホヒ}勢ノミ有^ク譬ヒトリ^{フク}溟滓トテ何モ意クト
リヒラザル見^クヲ云 ○溟滓而含^{フク}牙^{キヤ} 此ノ五字ハ春秋緯ト云
書ノ文字ニテソレヲ切り入レテ書タリ淮南子ノ文ニハ非ス訓
レテクハモリト云ハクラクコモルノ義ナリ含^{フク}牙^{キヤ}ハタマゴノキヤシ

カヘラントスル時ノ如ク天地渾沌タルモヤガテ天ハ天地ハ地ト分ラレ
トスルイキホヒ卵ニタトフベキ物ニ意キ故夜ノ明ントスルニ意ヲ
トリテ書タルモノ也ヤコヘノ鳥ツゲ渡ル比ヨリイマタ天地ハク
ラク天モ地モ辨ヘ不見闇夜モ次^キ予ニ陽^{キヤ}気ノ牙^{キヤ}ヲフクミ
ヤウヤク東雲タナ引天ヨリ先^キノ夜ノ明ルハ見ヘテ地ノ明ニ
見ユルハ其ノ子日ノ出テ見ユル也予師、此^キ更^キヲ問ニ師折節タ
バコヲ吞テ居ラレシガ則此イワフクノ内ニ天地開闢アリ煙ハ輕キ
モノ故上ニタナ引テ天ニ属シスイガラハ重キ物故是ヲアテテ地ニ属ス
一切ノ更ニ可通^クヲニテ今日ノ上ヲタトヘテ書タル物可成ト實ニ此ノ

言ハ天地開闢ヲ早ク俗ニサトサシムルニハ能タトヘナリ

○ヨシテツノスミ及其清陽者薄靡而此文陰輕ノ字ヲ清陽ノ二字天ノ陽徳ヲ云陽徳

ハイツ片無クタナ引ト云テ空ニフバクトタナ引ヤスキゾ一説靡

ノ字ヲ塵ニ作ルヘシト云説有リ延佳ノ講述鈔本ナドノ義是

ナリ然レハ淮南子靡ニ作ル淮南子ノ注ハ漢ノ河東高誘也

注ニ曰薄靡者若塵埃飛揚之見也是ヲタナ引テト訓ヌ

ル更ニ万葉集ニモ棚引又輕引俱ニタナ引キト讀セタリ棚引ハ

貌ヲ以テ云ヒ如棚引ノ義輕引ハ氣ヲ以テ云フ形カキテニモセヨ又氣

ニモセヨ清ムモノハ天ニ屬ス ○鳥ナリ天ヲ天トナルニハアララス天ゾクニ屬

スト見ルヘシ天ト成タルヲ見タル者アルベカラス今日ニテモ清陽

輕引ノモノハ天ニ屬スルヲ以テ其初メモ如是ナルヘシト推量ノ説

也 ○此文陰陰ノ字重濁者カサナリニヨレルモノハ清陽ニ非レハ物ノ形ヲナス故重濁ナリ是ヲ

カサナリニゴルト云点ハ惡ナリオモクト説ベシ ○淹滯而屬地ツヅイテ

滯トヨリリアワレト也其ト、コホリアワマリテ氣ノ不散モノ土ニ

屬ス氣ノ不散ヲコルト云惣テ日本ノ声母ニテ上ニコトオケバコ

ル義ナリ一身ノ内ニテコリヨリタルモノヲ心ト云水ノコリタル氷

ト云物ニコリルゴセルゴカル、コスム子ト云モノハ夫婦ノ情ノコリテ

生スルモノ也及諾ト云テ其コル氣ガユルヲコユルト云サレバニト

云訓ハ瓊ノ本語ニテアカキ色ナル故前セユトク丹ヲセニト詠
ム是日輪ノ陽光ノ訓也海ノ潮日輪ニイリフケラレコリカタ
マリテ嶋ト成ル是モ始ハカタマリカタシ數年ヲヘテカタ子地ト
ナルニノ徳ニテユル始ハカタマリ難キヲニゴルト訓ス清陽ナル物
ハ形ヲ不成濁ルニヨリテ形ヲナス人ノ体ノ垢穢ナルモ此ニゴル
ニ付テ生ズルガ故也故ニ自然ト人情五濁ニソマリマスシ

○精妙之合

此精ノ字古本作清後人淮南子ニ依テ精
ニ改メルヨシ一説アレソシハ非ナリ淮南子ニ作清上ノ清陽
ニ對タル言ニテ清陽ナル物ニハ妙アリ人智不測ノ場ニテ

言ニハ云ヒ尽シ難キヲ精妙ト云々トヘハ樟腦ヲ茶碗
ニ入シ其上ヲ紙ニテ張紙ノ上ニ茶碗ヲ蓋ニシ合セメラ
土ニテヌリ火ニカケテ焼クニ紙ハヨハラズ損ゼズ樟腦
ノ精氣計リ上ノ茶碗ニ付キカスハ下ニトマリ此紙ノ
不損理非妙シテ何ソヤ其上ノ茶碗ナルヲハラヒ落シテ
斤腦ト号スベテ天地ノ清濁ヲ分フモ此斤腦ノ理ニ
テ知ヘシ然レハ是ハ精妙ト音ニテ讀テクハシクタヘシ
トハ決テ不可読精妙ノ氣ハソラニテアヒヤスク重濁ノ氣
ハ急ニハカタマリカタシ

○搏易

アヲグフヤスクト可読

俗点アヲキヤスクトアリ易擣ナレハ其通り読ヘケレ本ノ
俣ニテハ読カタシ此擣ト云字淮南子ニハ專ノ字ニ作ル註
ニ作擣トアリ專ナレハアツマリヤスクト云意ナリ

○重濁之凝場難 カサリテシレガ ユラズルハカタリカタシ 是モコリカタニルカカタシト読ベシ

淮南子ニハ場ヲ竭ニ作ルカタマリ及スフノ心ナレバ今ノ本
ハ誤リ也 ○故 カシ レトヲト通ズフクカラニ秋ノ草木ノシホ

ルレバムベ山風ヲアラシト云ラニフクユヘニト云心ナリ今モ田舎
言バニ其ゴトクシテカラコノ如クシテカラト云ニ故ノ心アリ

然レハ俗學者者常ノ書ヲ讀ムニ故トヨムハ重言ニナレ

カレトカユヘトカ一ツニテスム一也是ガ日本ノ古語ヲシラサル

失也 ○天先成而地後定 アマニツオツテ ツチノチニサタレ 天ト云モ地ガナケレバ其名ハナシ

天地ハ同時ニ開クル物ナレ氏气ト体ト清ト濁ト分ケテ天

ヲ先ヘナリタルヤウニカリニ書タルモ淮南子ノ本文ノ通り也

天先ナルト云故ニ哥ノ枕言バニモ又カタノアメト讀也地後

ニ定ルト云故ニ天ハ地ヨリ又カタノ物ト云心ズ是迄ガ淮南

子ノ文ヲ少シサシ引シテ書タルモノ也 ○然後神聖生其中焉 カミアレニスソナカニ

然後ト云ヨリ夫一人ノ始メヲ説ソヘ祭ル片ハ神ト称シ在世ノ

片ハ聖ト称スル天照大神ノ御先祖其天地ノ間ニ御出生

ナカレシト云幾ヲ説テサテ故曰ト云ヨリ日本一國ノ神ヲ説
ナリ天地開闢ハ方國同一ト上ニ述来リ其中ニ日本ノ始メハ
如是ト下ノ文ヲ起ス也俗世學者音ニテ讀フヲ不知故ヘニ
神聖ノ二字ヲカケテカミト讀セタリ夫ニテハ聖ノ字幾ス
ズ故ニ當流音ニテヨメル、夕ケハ音ニテ讀ムヤムフヲアサレハ日
本ノ語ニテ讀フ也何ヲ云テモ漢ノ文字ニテ書タレ物ナレハ
文字ノ外深キ傳アリト云ハ私ノ説ニテ公ノ幾ニ非ズトシレ
ベシ
○故曰開闢之初洲壤浮漂譬猶游魚之浮水上也于
時天地之中生一物アツチノ、エカニ、ナレリヒトツクモ他流ニテハ祭端ニ天地開闢ヲ説ナラ

念ヲ入レテ開闢ノ道理ヲ委ク説幾也ト釈ス又一説ニ故曰
已下ハ上ニ説タレ開ヒヤクノ文ノ註ニテ上ヲ受テ幾ヲ釈スル也
ト云々右兩説トカク祭端ノ開ヒヤクノ文ハ淮南子ノ文ヲカ
リテ書タレ物ナレ氏日本ハ異國トカハリ神國ナルヨリテ異
國ノ不及難有義多シ依テ開闢ニ大キニ違変也故ニ文ヲ
カリテ意ヲ不借ト説来ルニ付故曰已下註トカ上ヲオシカ
ヘシテ説トカ不并ハ其上ニ説タレ神國ハ別也ト云幾ト
文ハカリテ意ハ不借ト云説トニ不合ヲ以テナリ案スルニ
天地開闢一方國何ゾ各別ナラシヤ造化ノ用ヒヤク方國同

一十ニ依テ淮南子ノ天文訓ヲカリテ惣序ノ意ニ開卷ノ
初ニ置万国通シテ一天地ノ中ナルヲ知セ叔夫故日本ノ
初メハモフシ傳ル處地是ト故曰ヨリ已下ニ書タル物也

○開闢ノ二字天地ト云字ハ十ケレ氏夫ハ上ヘユワリテ開闢
トハカリ書タル物ナレバ天地ト云心ヲソヘテ開闢二字ニテア
ワチヒラクルノ始ト読変習也ト云説アリ然氏所詮音
ニテ読モノナレバ夕夕字ノ如ク可統淮南子ニ書タル重
濁ノモノハ爲地ト云文イカニモ成ル書ヤウ也日本ノ初
メモ其通りニテ重ク濁ルモノハ難堅^{クニ}洲^{ツチ}壤ノ浮レ漂ル也

游魚ノ水上ニ浮ムガゴトク何レノ岸ニ付レ不知カタマリ
難ニタトヘタリ直ニ游魚ノ如レト云ハ非ズ夫ニハ譬猶
ト置タリ游魚ハ譬容也古夏記ニハ水母^{クラゲ}ノヤウニ漂トタトヘ
タリ何レモイマダ難堅也游魚ノ游ノ字アチラコチラヘ
アソブト心ヘテ叙スルハ非也游ノ字ニテモ遊ノ字ニテモ心ニ
サハリ毎ク外ヘ行^クニテ日本ノ語ノヤウニ我家ニテ樂ム^クヲ
遊トハ不云唐土ニテハ遊學ト云テ能師アレハ旅ガケニ遠
方ヘ行テ學問スルヲ云其時遊ノ字行^クニ成ル也タトヘハ僧
徒遠國ノ世子寮ヘ行テ修行スルトドヲ遊學ト云ベシ遊ハ

心面白クアリク心ノ字游ハ海河ナトヲ越テ行心ノ字故ニオヨク
此ヨム也日本ニテ俗語ニ云アソブト云字ハ戲ノ字ヨク合ナリ
游遊二字ハ不合游魚ハ水上ヲ行クウラノ不滞ニタトヘ依不
滞自然ト後ハカタマニ所アリ是天ノ一ヲ不説ト云ヘ凡開ノ
字ニ天ヲ持セ關ノ字ニ地ヲ込テ書タムセノ也淮南子ニ天先成
而文此文ノ如ク日本ニ神聖ニ中ニ生ズルト云フト同ク天地
ノ中ニ一物ヲ生ズ淮南子ニハ神聖生其中ノ字ニ是ヲ加ヘ
置テ此ト合サレタメ也天地ノ間人ニ不限一物皆依地生ズ
其万物ノ生スル初ハ一ヨリニテ生シ次第ニハビヨリテ一物ト成

ト心得ベシ ○^{カタチ}狀 同シカタチニテモキニ取テ見ル形ニテハ並

人ノ行跡ヲ書テ行狀ト云蘇ノ字ノ義ト同ク是云ヒ並ヘテ
見ル氏ハト之心也 ○如葦^{アシ}牙^カ便化^カ爲神^{カミ}彌國^{ミクニ}常立^{トキニ}尊^{ミコト}

惣テ天ノ日切ニテ海ヲイリツケ嶋トハナレ凡塩^{シホ}氣アルユ(ニ
切ノ草木モ不生塩ヲ不嫌生ズルモノハ葦也アシ生シテ雨露
ノ霜雪コシニ加ハリ其雨露霜雪ノ雫ヨリ外ノ草木モ生シ
夫ヨリ一物生ズルニ至ル是ヲタトヘテ物ノ初メ葦ノ牙ヲ出
シタル如クトタトヘタル也如クト云字アルニテ直ニアレノメガ國ノ
常立ト成タルニハ非ズト知ベシ他流國常立天地造化ノ德

ニテ生じユフ其一神ノ氣ニフレテ又外ノ神生ズルヲ氣化ト
云二神傳ハル中ニ陽氣ヲ受テハ男子生じ陰氣ヲ受テハ
女子生ズ是ヨリ相胎^{イヒタシ}テ子ヲウム是ヲ胎氣ト云外ニ虫獸
ノ類ハ温氣ヨリテ化ス此四ツヲ造化氣化胎化温化是
ヲ四化傳ト云テ秘シテ説ナリ觀無量壽經言義我分ニ四化
ノ説アリ其説ヲ盜ミ来リテ神道ノ秘説トス書ヲ見ル
莫ノ不博ヨリ起レリ此段ハ日本最初ノ神名ノ幾ナレハ
中ニオロソカニハ難説其正説ト曰ハ夫天地開闢スレバ自^{カシカラ}
有日是ヲ一ツノ物ト云天地一因ナル片其中ニ一ヲ引ケハ即

是日ノ字也是ノ日徳ヲ以テ人ヲ生ズ故ニ人ノ訓日トビルノ
幾ニテ日氣ノ陽止テ人体ヲナスト云ハ其初ハ葦牙ノ如ク
ワヅカ成変ナルベケレ氏次第ニ繁昌シテアシノヒロクハビコルガ
如ク人民衆ク生スベキ初ヲ説テタトハバアシカヒノ如ク即
チ日徳ニ化セラレテ人ノ初メヲ生ズ日徳人ノ初メヲ化成
スレヲ尊号シテ國ノ常立ノ尊ト申ス國ハ吾^{ワガ}日本國ナリ
常立ハワ子ニ立テ世界ヲテラスノ事ヲ日輪照世^ス変万国
雖同一也如是ノ神名ヲ日輪ニ奉ルハ吾國^{ワガ}計ノ号故國ハ
吾國^{ワガ}ト指ナリ叔天照大神ノ御父伊弉諾尊ニ後ハ

下フシ傳ルル処モ粗明ナレトモ夫ヨリ以前ノ義ハサダカニ不傳
伊弉諾尊ノ七世ノ祖ニ此日德ノ号ヲ謚シ奉リ是ヲモ又
國ノ常立ノ尊ト云造化日輪ノ國ノ常立ノ尊ハ万古ヨリア
リ久遠實成ノ國ノ常立ノ尊ニシテ万世不減無量壽ノ神
名也伊弉諾尊七世ノ祖人体ノ國ノ常立ノ尊ハ其時ノ
御名ハ不知日輪ノ御德ヲカリテ名ルトイヘ此時外ニ何
程モ人有ベシ天子ノ始祖ト崇シテ見ルヘシサレハ久遠實成
ノ日德ノ國ノ常立ノ尊ハ外宮豊受皇大神ニシテ後ニ
ソレハ瓊杵尊ヲ合セ祭ル瓊々杵尊ヲ合セタルニ依テ皇

大神ト皇ノ字ヲ置タリ是ノ造化日輪ノ國ノ常立ノ尊
五穀成就スル德ヲ名テハ稻荷大明神ト号ス稻生イ子丸
ノ心大ノ字ヲ神代卷下卷ニウト詭セタリ大人此曰于志
トアリ大ナル水ヲ海ト云ヒ大ナルソラ言ヲウソト云類ニテ
大ノ古訓ウナルヲ可知又日ヲカト云訓三日四日カケカスム
ナドニテ可知大日ト書テ和訓ウカ也大陽ノ日輪ヲ夕
マシイトスル神靈是ヲウカノミタマト云稻荷ヲ宇賀ノ
神靈ト云モ此ヲ以テ也カトケト通音ナル故神代上卷一
書ニハ保食神ト云モ日德五穀ヲ生スルノ德ヲ指テウケハ

ウカト同じ外宮ヲトヨウケト云セ豊葦原大日神靈トノ義
是ヲ以テ伊勢ニテモ外宮ハ御食津神ケツノカミ氏号スイナリニ
狐ヲワカハシメトスルヲモミケツノト云フヲ怪リミキツ子ト
云ヨリ祭レハ自ラ野狐モ集テコ、ニ住ナルベシ其内外宮
ニ祭ル所ハ五穀成就ノ徳トニ不限日徳万物ヲ生ズル惣
体ヲ祭リタルモノ也イナリト云片ハ其中ニ稻生スル徳トヲ
トリワケテ祭リタルモノ也又人体ニテ國ノ常ヲト云ハハ伊勢諾
人御先祖ヘカリニ日徳ノ名ヲカリテ謚シ奉ルモノ也宸初ヨ
リ日徳ノトリニハシラテ天子ノ祖名トスル故始終日本
ノ天子ハ日徳ノトリニハシテ天下ヲ化スル也アノヲボコト
云モ日徳ノトリニハシナリ神代下卷ニヒロボコト云モ日徳ノ
義ナリ三種ノ神器ト云モ日ノ明ナルハ鏡ニタトヘ物ヲカラスハ
釵ニタトヘ丸キ形ニ見ユル故イカヤウ成ル所ヘモニガリテ入ルヲ
ニガ玉ニ比ス神名ヲ謚スルモ天照大神ヲ日ノ神ト称シソノ
次ヲ勝速日ト称シ其次ヲ瓊杵ト号スニハヌボコノヌト
同シ日ノ徳ノ國ヲ日本ト号スル類ヒ一方更皆日徳ニヨリテ
立ル教ヘナレバナリ然レ此ノ國常立ノ謚文字渡リテヨリ後
ニ謚リタルモノト見ヘタリ文字不渡己前ノ謚ニテハ有ベカラズ

神道者ト号スル輩書ニ不博故神代ヨリノ名ト思フハ抱

群書治要四十六

上古堯天下ヲ九部ニ分フ九風九俗也

腹ノ至リ也荀悦ガ申鑒ニ曰ク惟審九風以定國常又曰

群書治要四十六

常八恒也經也法也則也

人ノ主之患常立於二難之間云々國常ト云ヒ常立トアル申鑒

ノ意ヲ考ルニ天子民ヲ治ノ徳ヲ指テ云フ然ハ其文字ヲ借

リテ國常立尊ト天子ノ御先祖ノ謚ヲ奉リ日徳ノ義ニ合

セテ敬タム号ナレバシ伊勢流講述抄十トハ國常立尊ハ人

性也ト説来ル是佛性ト云ラカリテ神性ト云ヒ為ノ説ナリ

日本人ハ神性ヲ具タリト云我慢ノ説ヤウ也性ト云ハ一笑スベ

キ也垂加ヲ初メ諸流ノ神道者ノ説神秘ト深キノ

ヤウニ説傳フレテ證又毎キノニ然レハ神代卷竅初ノ

神名スニガル故日徳ヲ以テ説タレ物ト云一部ハ貫通スル

スハリタレトニ非ズ是ニヨリテ神代卷ヲハナレテ神武正後ノ

卷ニナリテ神代ハ神代人代ハ人代トワカレ一部ノオシ回シ

會通シガタキトノニ也叔人生ル其初メヲ云ハハ男ノ陽精

女ノ陰中ニ止リテ是ヲ種トシテ生ズ日徳イニ夕東ニ不現

形水中ニ日徳ヲメグムヲ國常立氏名テ方ニトリテハ北キタ五

行ニトリテハ水色ニトリテハ黒一滴ノ陽精イニ夕形ヲ難

見分ガ如ク日輪ノ出テ世ヲ照スベキ其本モトヲ名テテ國ノ

常立ノ尊ト見テ初メテ東へ出ル日ヲ國ノ狭サ槌ノ尊ト云
カヤウニ七代ノ御先祖ヲ日ノ巡リヤウニテ次弟ヲ付子ト云
所ハモタル奥ニアル面足尊カレコ子惶根尊ヲ又水徳へモトシ水生木ト伊イサ蘇
諾ナギ尊ヲ生シ木生火ト天照大神ヲ火徳ニシテ日ノ神ト称
シ奉ルヤウニ何レモ後ヨリ五行ノ次弟ヲ立テ神名ヲ謚シ
タルモノ也正上國常立尊ノ説當流義ノ外悞ルル多ク流
流義ノ説ハ可秘 ○至貴且尊自餘曰命並訓美舉等
下皆倣此 日本書紀ヨリ前ノ書古文中臣被十トハ天子
七臣下ト通シテ命ノ字ヲ書テニコト、訓也ニコトハ御コ

ト、云義敬フタル言史記ノ素隱ニ命ハ言賢人ノ有者於世ト
アレハ其字ヲ取テ日本ニテモニコト号ニ用ヒタルト見ヘタリ然
ルニ日本書紀ハ漢文ヲ以テカサリ立テ書タルモノ故尊命ノ
ニツラ別テ造化ニテハ日月星辰ノ徳ヲ祭リテ神トスル時
尊ヲ用ヒ天子至尊ノ靈ヲ祭リテ神トスルモ尊ヲ用ヒ風ノ
徳雨ノ徳川ノ靈海ノ靈ニ十トハ命ヲ用ヒ朝ニ度へ仕ユル人ノ
靈ニモ命ヲ用ユ朝ニ度へモ不仕庶人ニハ古来トイヘ凡ニコ
ト号ニ盡シ尊ハ敬ヒノ限り命ハ勅命ヲ受ル人ノ義トニミ
コト、読ム字ヲ分ケテ貴賤ヲシラスル義此書ノ未ニ至ル

近尊ト書テアルト命ト書テアルヲ見分ケテ其通りニ心得

ヨト云々ニテ下皆倣此ト書タルゾ ○次國^{ツイテクニ}狹^{ワチ}楯^{ワチ}尊^{トヨ}次^{トヨ}豊

斟^{クシ}淳^ヌ尊 次ヲツ、イテトヨムベシ國ノ常立ノ日德始テ東

顯^{アラハル}ル時^ハ日^カ若^カケレ氏^ト土^ヲカレハ照^シホス德アリ狹^ハ楯^ハセバキナリ

少^キ心^{ナリ}楯^ハ土^ノ訓^ヲカリテ書タルモノ也造化ノ日輪如是

ナレバ伊^ハ耜^ノ諾^六世ノ祖^ヲ是^ニ准^{ヘテ}國ノ狹^ハ楯^ノ尊^ト謚^ス

東^ハ木^ノ德^故木^生火^ト其^南方^火德^ノ方^へ巡^ル日^輪於^此

世界^國土^ヲ十分^ニ不^照云^リ也^其明^照ノ号^ヲカリテ伊^耜

諾^五世ノ祖^ヲ豊^斟淳^尊ト謚^ストヨハ^禳衣^{タル}言^クシヌハクニ

ニ^凡即^チサス海^ノ潮^ヲ酌^カヘシクテ日^德ノ是^ヲイリ付^テニ

ツメルマウ^ニ乾^スヲ云^酌者^テ國^土ヲ十^ス故^クニ^ニノ中^畧國^ト

云^也伊^勢冬^宮ノ海^道ニ豊^久野^ト云^モ昔^此所^ニトヨクシヌノ

社^{アリ}タルヲ今^悵テ呼^言也天^ノ造^化ノ日^德海^ヲク^ニニ^凡ガ如

ク五^世ノ祖^ソロク^ト民^ヲ十^ツケ礼^義モ^セセ^ク淳^ノ如^ク無^差

別^ヲ斟^酌シテヨ^キ禳^ニ導^カキ玉^ヲ義^ヲトリテ謚^トスルナリ

サレバ後^ニ伊^耜諾^伊耜^冊ノ尊^天ノ浮^橋ノ上^ニテ御^相諒^ナ

ア^レトリ^シマ^リモ^セキ海^へ天^ノ瓊^矛ト^テ日^德ノマ^ラナ^ル御

志^ヲサ^レ向^テ玉^ヲモ^セ此^トヨクシヌノ道^理ヲ受^傳へ玉^ヒテ^ノ義

也又ボユハ澤ヲ斟ノ事ニテホユハ日徳ノアタカ成ル心今ニホ
フクト云言ニテ可知夫日ハ火精數ニトレバ三ヲ男ニテハ離ノ卦

ヒタタボコホコノマクヒ

是モ數ヲ三ニトル俗ニ火性ハ魂三ツト云モ是ヨリ起リタル幾ナ
ルベシ國常立國狹植豐斟澤三神ハ日輪天ヲ巡テイハタ地ニ
不和徳ヲ以テ伊弊諾七世六世五世是ノ三代迄ハ時代違ニ
シテ血脉ノ父方ハシシテ母方不知故父方三代斗ハ跡ヨリ
謚スルニ日輪ノ天ヲ巡行スル次第ヲ取テ神名トシテ考者也
○元三神矣乾道獨化所以成此純男ニ三神ハ則日徳ニテ
一ヲ分ケテ三ノ數ニテイハ人人体ニ取リテハ實ニ三世ノ謚ト

ステヒシヲカニス アタカニテセトリナス ユヘニナセリコノヲトコノカギナラ

しルベシ乾道獨化ニ下十字全ク易ノ文ヲ取テ書クタルモノニテ
乾ハ天ノ徳ナリ父ハ天ナリ母ハ地ナリ故ニ父ノ系圖ノミヲ舉
ルニ易ヲカリテ此文ヲ用ヒ天地ノ間ニテモ天徳ノ乾道ノ
ミ化スレバ女ヲ生ズル理ナシ然レバ此時男女凡ニ可有母方
不知ニ依テ乾道獨化ニテ如是純男ト云テ純ハ男計リ
ヲスクリタル言ニテ陰ヲ不雜ニ神顯レ玉フヤウニ書タリ
爰端淮南子ヲ以テ書初タル故又易ノ文ヲ以テ其結文
トヌ手ギハ成ル書ヤリ也然レニ是ハ跡ヨリ入レタル文ト誦リ
六十六代一條院ノ御宇熊野ノ神体ヲ朝ニ庭ノ學士等

被仰旨考サセ玉フ家々ノ勅カ文ノ集タル書ヲ長寛勘文正八代二條院年号
トテ一卷アリ極其書ニ引タル神代卷ニ此易ノ文十ヶレバ古
本ニハ在リシモノ也ト論スル説アリ勅文ニ引タルハ畧シテ引
タルモノ也矣然ルヲ漢ノ書ニテ書出し結文ヲ亦易ニテ止ルハ
是文ノ約束ト云モノニテ面白キ書ヤリナルトカク俗學者
異國ノ書ヲ引テハ吾國ノヒケノマウニ心得如是ノ一ニヒテヲ
ハル患グ昧イノ輩多シ異國ノ書ヲ引テヲ忘テラバ何トテ神代
卷ハ漢字ニテ書タルヤヒラカニテ書テモ漢字ヲ畧シタル
モノ也呵、不足論 ○次有スカ神ウ泥ヒ土チ煮ニ藁コト沙ス土ヒ煮ニ藁コト

上ノ章ノ次ノ字ハニツナガラフ、イテト読ベシ此次ノ字ハワギニト
讀ベシ上ノ次ノ字ハ日輪天ヲノミ巡ルツ、チマウニタトヘタルモノ
也乾道獨化ナリシガ南方ヨリハ火生土ト中央ノ土ハ火徳入り
和シテ天ノ徳ト地ノ徳ト合熟ス天日徳土ヲ大ニ乾カハウヒチニ
ノ名ヲ設ケ地ノ徳日徳ヲ受テ沙チヲカハカスハスヒチニノ名ヲ
備ヘタリ是ヨリハ人体ニテ云片伊辨諾四祖ノ謚ニシテ今
日ニテ云ハ、曾祖父母故御夫婦アリシ妻トモ傳ハリシヲ天
地合熟ノ日徳ニ准ヘテ謚スル也是ヲ造化ニテ云時土ヲヒチト
云ハ日ノ徳ニテ泥ドモチ、マリカハク故早ヒチバムノ号也土ヲ

エヲヒチト読ス一泥ノ字ヲヒチリコト読セ苗氏、土カト云
モアリ者ノ字ハ日徳ニテニフメカハカスヲ云大ヲウト読一前
ニ七年スル如クニテ大ヒナル泥土モ少キ沙土モ不^{スナ}残者カク
メハ天地日徳ヲ合シタル印也夫ヲカタドリ謚トスルナリ

○^{ハシト}泥土此云^{ウヒチト}毗尼 ○^{サト}沙土此云^{スヒチト}須毗尼 是ハ例ノ款也

○亦曰^{ウヒチ子}泥土根尊沙土根尊 二ト子トノカハリ斗也久キ
一故カヤウニ^{スナ}覺タル人モアリトノ義也別ニ子細有ニ非ズ

○次有神^{スナカミ}大^{ヲホト}戸^ノ之^ノ道^チ尊 造化ニテ云片ハ土徳ヘヲリタル
日輪土生金ト西ニ巡ル金ハ物ノ程トナルカタマリノ有物

故是ノ頃ヨリハ人モウ家ヲ建テ住ムヲ知リ其中ニテカシラ
ダ子五ヲ御夫婦ナルヲ以テ大トノ子大トノメト云戸ハ家居
ノ心ナリ是モ御夫婦俱ニシシタルニ謚シテ伊弉諾三世ノ祖
トス道^チハ訓ノカリタル者ニテ祖父ト云心祖父ヲ子ヒト云モ
伊弉諾ノ祖父ヲ大トノ子ト謚セシ故ナルベシ大苦邊ト書テ
大トノベト讀ハ俗点ナリカヤウニ書ハ和文ノ習ニテ苦ハト、讀
ヘシ邊ハメト可續陰神女体ニテマシス故メト呼タル者也
然レ在字ノ意ハ戸モ出来屋根ヲフクフモ出来テト時代
ノ次第ニ調リタルヲ謚トスル也 ○一云^{ヲホト}大^ノ戸^ノ之^ノ邊 是ハ

大若邊尊ノ下ニ可有文字也是ニテ大トマヲ大ト、斗リ續ヲ可知

○亦曰大戸摩彦尊大戸摩姫尊 一云ト書タレ故ソレニ對シ

テ亦ノ字ヲ置タリ彦ハ男子ノ通称姫ハ女子ノ通称カハレ

トナシ ○亦曰大富道尊大富邊尊 大トノ下ト云ヲトント

ハ字テ變タレ斗也別ニ幾ナシ ○次有神面足尊惶根尊

造化ニテ云ハ、西方金徳ノ方ヨリ日輪北方水徳ノ方ニ入レ是金

生水也是ニ神名ヲ奉リタレモナシ是ヲ人体ニトリテハ

直ニ伊弉諾尊ノ御父母ノ謚ヲ夫ニ准ヘテ付ケタレモナリ

天文ノ家及ビ儒者日ノ巡リマウ東ヨリ南南ヨリ西ニ入テ

地球ヲ巡ルトテ地ノ下タヲ巡リテ又東ニ生ズル考マウナリ

佛説須弥ヲ巡ル時磨ヲマハスガ如ク東西南北又東へ

出レ体ニ見タリ天文ノ家儒者ノ説ハ其体ヲ説佛家ノ説

ハ其理ヲ説クモレモ也日月ノ一ツ、ニル所ハ蟻磨ノ如シ

トテ一ツノ蟻磨ノグルリヲ巡ルタトヘヲ用ヒザレハスニザレ

モノ也此ノ神名ノ立マウモ蟻磨ノ如ク日ヲ巡ラセテ書

タルモノ故初メ水徳ノ日輪國常立尊ヨリ巡ラセ初メ又水

徳ノ面足惶根尊ニテ六代ヲ立タリ六ハ水ノ數ナリ天一水ヲ

生スト云テ又一方物ノ終リヲ花ハ根ニカヘルガ如クナド云根ハ

則子ニテ北方水徳ニ飯スル也佛須弥ノ説ヲ五五ヒシヲ
儒者天文ニクヲシト難ズレト能^{コク}天文ヲ推^{ヲス}時ハ蟻磨ノ説
ニ非レハスマズ其蟻磨ノ説ハ須弥ノ説ニ合フ也^{ヲモタル}面足ハ此時ヨ
リ君臣朋友ノ差別粗分レテ自然ト君ハ君ノ面タリ
臣ハ臣ノ面タリ人ハ人ノ面タリ鳥獸ハ鳥獸ノ面タルヤウ
教ヘユラ神徳ゾト謚ス也又惶^{カシユ}根^ネ云ハカシコハカシコリ
ワシム心敬フ心アリ男子ハ男子ノ徳ノ根備リ女子ハ女子
ノ徳ノ根備リ其根ヲワシムウマヒテ不^レ失徳ヲ御子
伊弉諾尊ヘ傳ヘユラ故伊弉諾尊後ニ女ノ先キヘ物

云云又ヲ御合点不^レ被^レ成ニ至ルカヤリニ次弟ノ人徳備リ来
リテ伊弉諾ノ御子天照大神ニ至リ徳化大ニ開キ天下ヲ
從ヘナビテ五フ日本万世ノ帝祖トナラセユラ也^{カヒテタリ}面足其分
ヲ不^レ失ハ男ノ徳ナリ女ハ陰ニシテ其根ヲワシム是大人ニ
配シテ夫婦徳ヲ合ス故ニ面足惶根ト神名ヲ奉リテ也
惶ト云字ウマヒワシムノ心アリ夫故大切ノ文ノ奥ニハ
ナカシコト書字ヲカリテ穴賢トカケ正字大惶也大ニ
ワシムウマヒ心ナリ日本書紀神武卷ニ大ヲアナト訓シ
タリ男ノ文ニハ恐懼謹言トカケ女ノフニハ恐懼ノ惶

九大笑日大醜^辛大醜^此云^執奈^添徐^白

ノ字ナリリカレト書シガ今ハ轉ジテカレト書也

○亦曰吾屋惶根尊 吾屋ハアノ轉語アナカレト云

心ナリ ○亦曰忌檀城尊 忌ハ清淨ノ心カレキハカレト

ノ轉語也 ○亦曰音檀城根尊 音ハアヤノ轉語也

○亦曰吾屋檀城尊 是モアナカレトノ轉シタル語ニテ聊

モカハル一義シ是ニ一々義理アリトテ名ノカハリタルヤウニ一義

ヲ設ケテ説流義アリ此書ヲ撰タル時タニ古老ノ説ハ傳ヘ

タル所ナシ宛ノ相違アリテ夫ヲ如是ニ不漏載ラレタル

夏ナレハ別ニ一義ヲ可有ヤウナシタトハ八十人覺ヘタル中ニ

六人同じヤウニ云フ本段ハ舉ゲ殘ル四人ナシ宛覺ヘテガハニ傳

ヲモラサズ細字ニ書載ラレタリ然レハ何分ニ本段ノ神名

ヲ正説ト可見 □男女交合ノ時一滴ノ水ヲ落ス是ヲ一月ト

シニタ月メ三月メ迄ハイマタ胎内ニ形ヲ不成是男ノ陽徳ハ

軌道獨化スレドモ女ノ陰胎イマダシラズ四月ト云四ノ數陰

ニテウヒチニト形ヲナス形ハ土ノ徳ニツカザレバ不成モノナリ

男ノ陽徳土入テ形ヲナシ女ノ陰徳ウケ持テ胎内ノ子ノ

ヒイヲ生ズ故ニ脾胃ハ土ニ屬ススヒチニテ以テ五ノ月トスル也

形生スルガ故ニ是ヨリ腹帯ヲ着ス六月ニ至テ土ニ金石ノ

骨ヲ生ズルガ如ク胎子ノ骨ナレ七月ニシテ胞^{エテ}ヲカヅク故ニ
六月ヲ大トノチトシ七月ヲ大トマト云八月ニシテ身モヲモク
腹モ下ヘタル、九月ニシテ生シ出ル片女ノツ、シミアル処ニテ其
生レタル子ノ根ヲ見テ男根女根ヲ分チ男女ヲ知ル是ノ
男根女根ヲ成長シテツ、シニテ子孫ヲ可傳モノ也根リ
スルヲナカレノ義ニテカシコ子ノ号アリ八月ハオモクタル、故
オモタルト云ヒ九月ハ男女ノ根ヤガテ可見分モトナル故カシ
コ子ト云宸初一滴ノ水ヨリムスビソメタル人体ナレバセトノ
水ニ飯ヲサレバ不生故ニオモタルカシコ子ヲ水徳トシ十月ニ

至テ面ヘ形ヲ顯ス所ノ^{モク}林^{トク}徳伊弉諾尊水生木ト生シ五ク
古今ノ人如是順ニ五行巡リ来レバ生ル、也ト六世ノ祖^ミ来
ヲ日徳ノ巡リニタトヘ又人ノ生ル、胎中ノアリサ、ニ譬喩シ
テ説クモノ也是ニ依テ上卷ノ内ノ一書ニ伊弉册尊ノ崩御
ノ一アリ是ハ又五行ニテ不書四大ノハナレマウニテ書テアリ生
ルハ佛書ノ五行ニテ書キ死スルハ佛書ノ四大ニテ書タルト
云所ヘ俗學者眼不付故大切成神代卷^バ化物^{モク}バナシノ
ヤウニ成テ残念ノ事也此ノ人ノ生ル、次第ニテ六世ヲ書ク
ト云一^ニ面ヘハ不顯心ニコメテ叙スルガ神代卷ノ至極ノ傳也

垂加流ニ土金ノ傳ト云フ有リ土ハ五行ノ中ニシテ木火水金ヲ
兼タルモノ也土ノ中ニ金生シテモ金生水ト云テ水ガ手傳ハガレハ
シラズ土ヲシメル物ハ水也ワキシメト云意ヲ今ツシミト云
土ハ五行ヲ兼ルモノナレバイツシメト云テイツシムガ神道ノ
大變也オモタルカシコ子ノ水徳ニ非レバシラズト説テ是ヨリ
神代卷一部ヲ土ト金トニテ説キ是ヲ常盤連ノ傳也ト
卷物ヲ以テ秘シテ傳フル事ナリ此説宋儒ノ敬ノ一字ヲ以テ
儒書ヲ通シテ説ニ習ヒタルモノ也神書ノ古義ニ非ズ常盤
連ノ傳ナラハ古書ニモ可有事ナレハ一切ノ旧記ニ不見全ク垂

加自作ノ説ニシテ不足取モノ也是ヲ傳也ト云人有りハ其大旨
ハ右ノ通り也必ニドヒ不可受然モ不知シテ破之ハイカニユヘ
アラマシヲ右ノ通りニ説置也彼流義ニテハ甚ダ深秘トテ
容易クハ不傳也 ○次有神伊弉諾尊伊弉册尊
是迄テ二神御出生ノ次第ヲ説キイサナギイサナミノ功ハ
一ノ浮橋ノ章ニ後段ニ本文ニ付テ説クナレバ此ニ妻ク不及
并然モ神代ノ見ヤウニ習有テ面足惶根ヨリ前ハシカトシ
シカタキニ謠ヲシテ日輪ノ巡リヤウニ合セラカリニ名ヲ設テ
タルモノナレハ何レモ徳ヲ以テ是ヲ説クイサナギニ後ハ徳ニ

不物天下ヲ經營ナサル、即チ以テ説ク故ニ天照大神ヨリ
五代ノ間ハ徳不僖ヲ不_レ論タム其_レ即チ以テ神名ヲ奉ルナリ
徳ヲ以テ説時代ト即チ以テ説時代トヲ見分ケサレバ此書
スニガレモノ也徳ハ己ノミ_レカ_レリテ其善少シ_レ切ハ天下ニ及ス故
其善大也コ_レロ_レ付テ見_レル_レ後ニ成程即チ貴テ重シトスル書マウ
ナリトクト眼ヲ付テ可見分_ル ○ 凡_レ八神ハ乾坤之道相參_ル
而化_ル所以成_ル此男女自_レ國常立尊_ル迄伊弉諾尊伊弉冉尊是謂_ル
神世七代者矣 是ハ_レ溷_ル土者沙土者ヨリ下イガナギイガナミ迄
四代二神宛アル故ニ四八神也此八神ハ乾坤ノ道相_レニハリテ

化_ル乾ハ陽ノ徳ヲサシ坤ハ陰ノ徳ヲサス其陰陽ノ徳ニ相參_ル
テ合_ル熟_ルセサレハ男女ヲナサストノ心ナリ然_レ長_レ實_ルハウヒニスヒ
子ニ時代ヨリ凡_レソ御夫婦ノ_レ一_レ七知_レテ有_ルタルト云_レ心ニテ御夫
婦ノ謚ヲ進セラレタル者也 □ 國常立尊ヨリ最初父ニ計
リ知_レテ有_ル三代叔此御夫婦ト七_レ知_レテ有_ル四代合セテ
七代シカ七_レ世_レ相_レ續_ルニテ七世ニシテ七代是_レ天照大神
ヨリ祭ラセ玉_レ御先祖ノ系圖トス俗學者是_レ迄ハ造化ノ
徳ノ義ニテ人体ニ非_スト説_クモノハ不當造化ヲアリテ人体ノ中ニ
七日本天子ノ御先祖ヲ日輪ノ巡_ル次序ニ准_レテ名ヲ設_クタル

モノ也世ニ天神七代地神五代ト之まハ古書ニ不見也古書ニハ此所
ニ神世七代トアル斗リ也神世トハマツル世ト云義イサナキイサナミ
天下ヲ治メ五ハントテサ一御苦勞十カレシ一度案ク書延ル付
テ其御出生ヲ知サレタ七代ト書列子タリ然レ七代目イサナギ
イサナミノ尊ナレバ此神世トハ天照大神ヨリ祭リ五フ世ト心得ベシ
トカク神代トハマツルヨヲ指テ云奇妙成ハケチ化物有テ今日ノ人トハ別
ナレヤウ一心得違タレ輩ハ不足論

神代卷辨書卷第一終

神代卷辨書卷第二

○伊弉諾尊伊弉册尊 イサハイイサナフ言又人ヲサワヒ出ス

言歸去來賦ナトニ七飯去來ト有ルイサト同ジイサ吾カ教

ニ不從ヤト人ヲイサナフニ不得心ナレモノヲムリニイサナフニハ

非ス夫故ナグト云字諾ヲ書タリ諾ハウチワレテ得心スル意

ノ字ナリイサナミハ夫ニ並ビテウケヨ治ル是ヲ以テイサナキ

ト並フ心ニテイサナミト云今ニ公家衆ニ六十ニ名ト云テ松ムキ

ヨシムキナト、採スルアリ天ノ浮橋ノ上ニ立チテト云義ニテ

ハ無シ是ノ浮橋ニ付テハ段々故實秘傳有ル也ナリ

コトヲフウナツク 那各如 字彙 又以言許人曰諾
諾
ウケガイラス 答也

○立於天浮橋之上

正說モノ初メヲ云端著橋已上同

訓ナリ初階走此ノ類轉訓ナリ此方ヨリ彼方へ道ノ
夕へ夕ニ此取ワキノ処ヲ端ト云其端ヨリ奥ニ至レハ地ハ
端ヨリ始ル布箱ニテ七切口ヲ端ト云家居ニテモ入り
口ノ間ヲハシノ一ト云皆ハジレニ意有リ其初ル所ヨリ初
ル処へ渡ス物ヲ橋ト云ソレヲカリテ椀ヨリ口へ食ヲ渡ス
モノヲ箸ト云轉ジテハ下ヨリ上へ渡スモノヲ階ト云ソノ
端ニ茅ヲ生スルヲ是ヨリ花モ果モナルヘキ元ニテ初メ
ト云此方ヨリ彼方へ行ヲ走ルト云是ニ依テ日本ニテハ

言ノ上ニハトアシハ初メノ変トナル春ハ四季ノ初メ也花ハ木
ノ端ニ生ズルモノ也晴ハ曇ヨリ初メ也張ハ春気ノ陽ノ
備リタル言也墓ハ初メノ気が枯テ一堆ノ墓ト成タル心
ハハジメノハカハカルカハゲルハ初ノ気がキヘルト云心キハ
及ナル故ナリ果ハ初メタル也天ノ浮橋ハ前モ云コトク
久カタノアメト号シテ古史記日本書紀ナドヲ書ク時代
ヲ以テ之ハ久遠ノ昔ト云我浮橋ノウキハイニダトリシラ
サル氏其久遠ノムカシニトリシリヲ付テ人ヲ人タル道へ可
渡ト云御工夫是ヲ名テ天ノ浮橋ト云此御工夫ノ御志

立ノ字古史記述云多多志

ヲ立五ヒテ立ト云ハ直ニシテイワ迄モ不愛ノ心イガナキ

イガナキノ御相談ノ初メ其依テ起ル本ノ御志ヲサシテ

天ノ字三義一ハ如字二ハ久遠久方ノアメリ類三ハ都月令雲客雲ノ上ア下ハ類

天ノ浮橋ニ立シテト云橋ト書タレ故文ノツナギニテ上

万葉集山上憶良筑前ニテ云ア下ルヒ五年住居シテ都ノ年アリワスラシテリ

云字ヲソヘタリ上ノ字別ニ意ハナシ□天ノ浮橋ノ異説

天ノ陽気ハ下リ地ノ陰気ハ上リカヤウニ通用シテカ物ヲ生

ズ是ヲ名テ天ノ浮橋ト云ト云ニ是ハイガナキイガナキヲ造化陰

陽ノ徳トノミ見テ人体ニテハ無シト考ルヨリ起レル説也□一説

西行法師哥 餅ヲクヒ酒ヲノミナバイカナラシタ見テサヘモアノハシタテ

天ノ浮橋ト云ハ丹後ノ國天ノハシタテト云所アリ昔イガナキ

イガナキ此ハシタテニテ御相談有シ旧跡也ト云ニ是ハイガナキ

イガナキヲ人体ニノミ取テ陰陽ノ徳ヲ備テ人体ヲ説ト云深

理ヲ不知説ナリ其外異説多シ不可惑立ノ字タナテト不訓

タ、シテト訓ハ古史記素本此浮橋ノ段多多志此点ニ依

テタ、シト訓ナリ古史記立ノ字ニ限リテ念ヲ入テ音註ヲ

付タレハ子細ナクテ不叶ト也其子細ト云ハ何変モ私ニトリ

ハカラヒテハ己身ノ心ヲ手本ニシテ不明成所アルモノナリ

故ニ御夫婦何変モ天ニ受テ志ヲ立五フ自今ノ志トハ

不思想又上古貴賤人倫ノ差別ナク其俗ニテ傳分ハ

禽獸モ人モ相混スヘキニイガナキイガナキニ尊御夫婦一

民ヲ導ント御志ヲ立玉フハ是自分シ立玉フニテ有テ天
徳日徳ノ如ク志ヲ立サセ玉クモノニテコソ有ラメト云心ニテ
天徳日徳ヨリ志ヲタテサレト云訓也 ○共計トモニハカフテ曰ク共ニハ
御夫婦御志ヲ合セテト云義也此計ノ字勘定スル也
軍ニモ始計ト云テイマダ軍勢ヲ不出前ニ未迄ノ一ヲ
勘定シテ見ル故ニ孫子上ノ初メヲ始計ノ篇ト云其始メニ
トリシヨリ盡レハ終リ不全御夫婦始メニ未迄ノ一ヲ
考ヘ計リ曰クト云心也 ○底下ソコニシテ橋上下書タル故其コノ對
シテカリニ底下ト書タリ此以前ヨリ天地アレバ國アリ

國アレバ人アリ無人嶋ニテタニニ神有セ玉クニテハナシ國ニア
レ氏一統セズ心々ナレハ互ニ争ヘ氏是ヲサバク人盡ク操ニ
シテ人倫タル道ヲ不知故ニ御夫婦仰合サレ吾志ヲ向
ル其向ケヤウニ依テ吾ニ從フ國ナキト之ハ有テ是夫道理
ゾト仰ラシ其志ヲ向ケ玉ク向フノ目當ヲ底下ト書タリニ
神ハ君ニシテ貴ク橋上ニ立テ諸國ハ臣ト可成モノニシテ
底下ニ有リ ○豈無國歟 志ノムケヤウニテヨモヤ從フ國
ノ無キハ有テシキトノ義也豈ハ今テノ俗語ニ云ヨモヤト云語
ニ心得テ可見サラニヤト不反ニテモ豈クニナカラサラニヤト云

心ノ処ニオク字也 ○^{スチテ}廻 是ノ廻ハ右ノ通御相説有ルヤ否ト

ニ念ナリ其伴ト云心ニ可見 ○^{アノノヌホコカレラロシテ}以天之瓊矛指而 是天

ノ又ボコ神代卷上下ノ卷ヲ貫通スルモノニテ神代ノ卷ノミ

非ズ日本書紀卅卷ヨリ万世ノ皇代此瓊矛ノ取回シグマ

ヨケレバ乱ル、^{ラカス}一ノ他國ノタメニ侵ル、^{ホコ}又無ク神國ヲ

一ノ室トモ教ヘ成ル大切ノ義也此所ニ又ボコヲ説一權

實ノ二ツ有リ實ヲ云ハ天ノ日輪也權ヲ云ハイガナギイ

ガナミニ神ノ御志也實ノ又ボコハ聖王惡王ノ差別無ク

一ノ世天下ヲ照シ止ム時ナシ故ニ唐土ニテモ日ノ字ヲ註スルニ

日ハ實也ト註ス劉焯ガ釋名ニモ日ハ實也ト註ス權ノ又

ボコハ是ヲ取回ス片ハ已^{カレ}ニ有リ失フ片ハ已ニ無シ神代ノ卷

祭瑞國ノ帝立ノ尊ヨリ日徳ニテ書来リ日輪ノ徳ヲ恐

コトノ教ヘ是ヲ訓シテ日^カ視ト号シ此ノ日ノ見ルハ一カ世不

易神名ヲ國帝立ニ天照大神凡可申是ヲ權ニテ云時

日^{ヒビリ}知ト云天子日ノ徳ヲシロシメスノ号其跡ヲ繼^{スギ}五フ太子

ヲ和訓ヒツギノミコト説ニ天子ハ直ニ日徳ヲ知り太子ハ其

跡ヲ繼五フ義田舎ナリトテ實ノ日輪ハア^ハシニ權ノ日輪ハ

アラガ^ハル故ヒトト云ヒヒ十人ト云フア^ハサガ^ハルヒトト号ニ讀

七都ヲ遠ガカリテハ天子一レニサヌ國ト云々也德政ニ非レバ
天子タラズ異國ニテモ周ノ頃迄古書ニハ聖ト稱スルハ天子
ニシテ徳有ル人ノ号也庶人ニテハ不稱然レ孔子ヲ聖ト云
ハ天子トシテモ宜キ祥ノ徳有リト褒ム号也後ノ儒者
懼リテ聖ハ徳ノ至レバヒロク天子ニ不_レ限_ラズト心得
テ聖ノ次キヲ賢ト云ト心得聖ト賢トノ間是程クト次
弟ヲ立レ佛法渡リテ後佛位菩薩位ト云_レ被_レ混_タル
名ノ取ヤリ也賢ハ上下通シテ名_レ徳有ル名也夫故不徳
成ル天子ニテモ聖主ト臣下ヨリ書也日本ノ大古ノ書ハ

神代卷ナレ、開闢ノ段、神聖生_レ其中ト書ク_レカ開卷ノ
一大事ニシテ天ニハ實ノ日輪在リ地ニハ權ノ聖人在テ聖人ハ
天ノ日神ノ徳ニ則テ政ヲ初メ_レテ_レ心ニ書出也_レ此處テ
ソレヲ受テイサナキイサナ_レ二神聖人ニシテ天ノ日神ノ徳ヲ
吾志ニ受テ向フヘ向テ_レテ_レ天ノ又ホ_レト云其御志ノカタニ
所ニ國ニテ得_レ五_レ御子_ニ聖人在テ其證ヲモ天ノ日神ニ唯
ヘテ日ノ神氏天照大神氏申奉ル但シ實ノ天照大神ハ
天ニ實スレ氏形ヲ_レ無_レ故ニ日輪ヲ天照大神ト云時ハ皇
ノ字ヲ不加皇ノ字ハ人体ナレ故生_レ減_ラリ日輪ハカ_レ世不

易ノ天照大神ニテ在スイサナギイサナミノ御子ハ此又ホコノ
徳ヲ受傳ヘテ生シキウノ人体天子ノ祖ナレバ崩御ノ後天
ノ岩戸ニ隠シ玉ヒ是ヲ伊豫ノ國天ノカグ山ニ葬リ奉ル
故ニ圓鏡ヲ鑄テ是ヲ神主トスルハ日ノ形ナシテ皇ノ御
靈權實一致ノ徳ヲ示スモノ也トカク神代卷ハ初メヨリ終
ニテ天ノ日輪ヲ實ノ天照大神ト立テトホリ皇ノ御代
々ヲ日徳相傳ノ權ノ日輪ト立テ説ク也此段ヲ心得
損シタル神道者權ト實トノ差別ヲ不知故今伊勢
ニ祭ル權ノ皇大神ヲ不易ノ日輪ノヤリニ説ナシ故實

ヲ失クモノ也又予ハ本日輪ノ玉ノ如クアタカカニシテ物ヲ
生シ物ヲ殺シ草ヲカラシ草ヲ如令茂ナル徳ヲ准ヘ瓊
ノ字赤玉也ト字書ニ詳シテ日輪ノ陽ノ色ニタトヘ即ニ
ギナト之時ノ瓊ノ字ニテ丹ト云字ヲニト訓赤キ也是
ニヨワテ音註ニ七瓊ハ玉也トハ歌ニモ日輪ノ一ヲ玉ホコノ
道トヨム故瓊ノ字ヲカリテ用ユト云義也 ○瓊玉也此日
努日本書紀出来ノ時分迄ハ漢音ヲ用ルモナシ故ニ江
音ニテ音註ヲ加ヘ又ホコトヨメト云心ニテ如是努ノ字ヲ置
ク古史記素本上ニ天沼矛ニ作ル沼ヲ畧シテ又トヨムナリ

心ハ日徳ノホコツク陽ニテ沼ヲ煮^{イリ}付テカタメ作^{ナス}如ク二神ノ御
志ニテ人倫ノ道カタメラガレ國々ヲカタメ五ク^イ支^イ宿^イ初^イ乾^イ道
獨化ノ段ニ^{トヨクシ}豊^ク斟^ク淳^ク尊^クトアル神名ト引合セ可見同ジ字
ナリ^カ矛^カト云々^カ金^カニテ製スル物ナレバ^カアタカ成^カヘキ道理^カ無^カキ
^{孟子}梁^惠王^篇不^嗜殺^人者^能一^之孰^能與^之對^日天^下莫^不與^也
ヲ^七ノヲ^殺ヘキ^ホコ^ニテ^ハ無^シ然^レレ^氏武^威無^シハ^アラ^キ民^ハ不^治
^孫子^謀攻^第三^言是^故百^戰百^勝非^善之^善者^也不^戰而^屈人^之兵^善之^善者^也
治^故武^器ヲ^用ユ^トイ^ハ氏^内ハ^日徳^温和^ノ惠^ヲ令^テサ^レ

ムク^ル故^ホコト^訓ス^ホコ^クト^シテ^陽徳^ノア^タカ^{ナル}是^相應^ニ見^分ケ^テ取^回シ^五ハ^天ノ^又ホ^コシ^テ天^ノ日^輪ハ
天^子在^テハ^日輪^ノ印^是ヲ^二神^ノ御^志ニ^受テ^其土^地ノ^相應^ニ見^分ケ^テ取^回シ^五ハ^天ノ^又ホ^コシ^テ天^ノ日^輪ハ

有^リノ^代ニ^テサ^シ引^ナシ^人ノ^志ニ^トリ^回ス^又ホ^コハ^時接^相應^ニ
ニ^フリ^回ス^又ホ^コハ^不調^故此^又ホ^コニ^寄リ^ト權^トアリ^俗學^者
者^カワ^テ不^知是^理神^書ノ^至要^ヲ淺^ニレ^ク説^ナシ^其上^天ノ^トボ^コト^訓ハ^日本^書紀^出來^ノ時^分迄^ハ江^音斗^リト^云フ^不
知^音註^ノ努^メ字^ヲ管^音ニ^トボ^コト^ヨム^マウ^ニナ^リタ^リ神^道
代^卷一^部貫^通ス^ル天^ノ又^ホコ^ノ素^讀ダ^知ラ^タ神^道者^共
共^天下^ニ滿^タリ^ソレ^何ヲ^以テ^カ神^書ノ^本意^ヲ説^キヤ[○]探^之
ウ^ニハ^矛ヲ^下ト^書タ^ル故^探之^ノ二^字ヲ^ワカ^ハ氏^志ヲ^向テ^民ヲ^懷
懷^テ見^テ心^ナリ^俗説^佛夫^婦玉^ヲ以^テカ^サリ^タル^矛ヲ^サセ

テ國々ヲ巡リ玉フ幾トノベ又實ニ造化ノ日輪ノ海ヲカハカ
シテ嶋トスル幾ニテ日輪ノイリワケラレ所々ニ嶋モ國モカタ
マリナリタム幾ヲタトヘントテ陽ノ德ヲイサナギノ名ニカリテ
説キ陰ノ德ヲイサナキノ名ニカリテ説タムモノニテ此段ハ一向
造化ノ一ノミニテ人体ヘクセカ、ラガル幾ト云説アリ俱ニ古
説ニ不合義ナレバ不可取 ○是獲滄溟コニミユキアラウキダラ 是トハ志ヲ向
テ玉フニ依リテト云心也此是ノ字志ノヌボコヲサス也是ガ
造化計リノ幾ニテラバ天地開闢スルヨリ海ハ可有何ゾ至
此始テアラウナバラヲ得玉フト書ニマ造化ノアラウナバラハ

初メヨリアリコ、ニ一境ノ地アリトイヘ氏政ヲホドコスヘキ人モ壹
トリシミラガル一ヲアラウナバラノ如クナルヲ見出し五ヒテト
見ルベシ ○其矛鋒瀟瀝之潮凝成一嶋フノホエノカキヨリシタメ、ルノシホコフテ 是レハホエト
書指下ト書タム故ホエサキヨリシタムハ潮トハ書タムレハ矛
ヨリ水ハ可出潮ハ不可出ス 金生水ノ幾ト云説アルハ難取
潮ト云モノハ年中カシヒキ定リタムモノニテ月ノ満ミチカケハ
從テカシ引ス其月ノ満欠ハ日輪光リヲ月ヘ十分ニウ
ツセバ十五日ノ如キ満月トナリク宛日ノ光リト相背ハ
次チ光リヲ失ヒ一向日ノ光リト相背ハ闇夜トナラ然

レハ潮ノサシ引セ日徳ヨリ起ルモノ也此潮ノサシ引十五夜
満月ナル夜万古万世違ヘ無シ晦日満月ナル例モ無ク十五
夜闇ナル時代モ不可有二神ノ志ノ向テヤウ民ノトリアワカヒ
正クシテ偏ナキ一ノ月ノ光リニ日ノカケヲカスガ如ク潮ノサシ
引ノサモナガハガルガ如ク治メテ朝朝夕ニサシ引カハシ
凡其程ヨクシテ民ノタメ宜キヤウニ取回シテ一境ノ地此
從ヒ御手下ニ屬ス是初テ一嶋御手ニ入シ更ナレバ一ノ
レニリトナシテ潮ヨリテヒトツノ嶋トナレト書タリ

○名之曰磯取盧嶋 是日本ニテ物ニ名ヲ付ル初ニシテ日徳ノ

如キ御志ヨリ一ツノシニリヲ得五ハ其義ヲ取テ此嶋ヲ磯取盧嶋
嶋ト名ヲ付トノ義也ヲノコハ陽ノ義人體ニテハ男天ノ徳ニテハ日
ヲ男トシ月ヲ女トス其如ク日徳ノヤウナル御志ニ依テ得テ嶋
ナレハ陽徳ヨリシニリ得タル義ニテヲノコ嶋ト号スヲノコ嶋トハ
日徳ノ嶋ト云心也ヲノコ口ノ口ハ助語也中臣被ニカニ口ギト
万葉集山鳥ノ尾口ノ長尾ニカニカトナフベキコソナニサリケメ
云口ニ心ナク万葉集ニ大王カモト読ベキウタヲオホキニ口カニ
ト讀テアリ此口ニモ心無シ後ニ唐人吾國ノ初リヲオノコ嶋
ト聞テ倭奴國ト書タリ此三字唐音ニテオノコト讀故也
イヤシメテ書タルニテハ音ヲカリテ書クルモノ也此嶋ガ

モト、成テ段々國々ヲ得玉ハ後々日本ト号スルモ日徳ガ本ト
ナリテヒロマリタルト云國号也他流何レニテモオノコロ嶋ハヲノ
ヅカラコル嶋ト云至セト説也天竺震旦ハ不及之方國皆自然
ニコリカタマリタル嶋ニテ吾國ノ中一ホ嶋ノミオノヅカラコルト
云々アラニヤ可笑此二神初テ得玉ヲ嶋ハ淡路嶋ノ近邊
ニ在テ万葉集ニモオノコロ嶋モアワヂ嶋モユルト讀タリ他
流今ノ早ヒ山ノフモトヲ指テオノコロ嶋ト云ナド、ノ説アリ一向
不可信證文不分明也オノコロ嶋ハ成嶋ト書テ生ト不書
淡路嶋モ爲胞トアリテ是モ生ムトハナシ其外ノ國々ハ生ト

アリ此等ノ書分テ神代卷見ヤウノ一傳ナリソレ民間高賣
ノ類ニ初メ一金ノタクハハ毎キ者夫婦心ヲ合セテ正シカセテ
ニ急リナケレバ或ハ五十金百金乃至二三百金モ昔ガ物ト成
是ヲ質トシ此金ノ取回シヨク少ク利ヲ得ルヲ後々終ニ
可得大利胞ト思フガ如ク初メ得タル金ハ吾ガ身上ノ一ツ
ノシニリト成ヌ也故ニ生ムニハ非スナシフリ回シテ利ヲ得ルハ後
ニ大利ヲ得ルモトイノ心也是モ未ダウムトハ難シ祿女胎内
生子其子胞ニ包レ胞ヨリ先ニ生スルモノナレハ胞ハ子ヲウムノ
本ナル故ノタトヘモノ也一ツノシニリト始テ得タル少利ノトリ

回し大徳ヲ不生無理ヲナサズ人ノタメニ成ル程ニフリ回セバ
其ワノシヨリト成タ^{モトテ}質ノ二三百金利息ヲ生出^{ウミ}し次第ニ
生^{ウミ}ヒロゲ大^トシニダイト成モノ也若^{モシ}此大身体ヲ子ニ譲^ユルニ
其子一ワノシヨリノ本ヲ忘シテフリ回し悪ケレバ親ノウミ
置タ^ル田地家屋敷金銀財宝他人ノ爲ニウミトラル也
余ク如^ク其^ノ一ワノシヨリノ^ノ取^ル盧嶋ヨリ政ノトリ回し日徳ノ
如クニ一ワモ私無ク民ヲ治メ吾クニヨリ國々ノ至^ス其徳ニ化
セラレ從フヲ臣トシ五ハズ是ヲシタシミテ子ト名テイツクシ
五クニ神ハ父母ト成り國々ノ長ハ子ト成し故^{モトヨリ}元来國々兄

弟ノ如クニ神ヲ父母ノ如ク思ヒナフキシヨリ其クセ傳ハリテ
日本ハ天子ヲカヘテハ自然ト万民合意セガ^ルヤウニ成タリ唐
ノ風ハ國々天子ニ從ヘハ臣トシテツカヒ五クガレバ父子ハ天倫
云テ惡^ク変有^ルニモ善^ク変アルモ其情ハナシズ君臣ハ何^ニゾ義我ガ
違フテクレバ自ラ情モハナ^ル者也是ヲ以テ唐ハ天子ノス
ジメカハリ行キ吾ガ日本ハ清盛頼朝尊氏秀吉ナド之威
勢盛ナル人モ二神ノ御子孫ヲ除^クテ天子ト成^テ変不能^ク
レ古来君臣ニ非ズ父子ノ如クナル親^シヲ本トシ五フ故也此
凡俗自然ト傳ハリ日本ニテハ家臣ヲ家^テ禮ト号ス父子ノ

礼ハ家内ノ礼ニテ君臣ノ如ク表ノ礼ニ非ス臣下主人ヲシタレム
支親ノ如クナルトノ心誰教ル凡益ク家礼ノ名目ニ傳ハリタリ
家類家来等ハ俗字也今ニ撰家宮方ニテモ其家へ從フカ
ロキ公家家ヲ家礼ト号ス中山ニ庭田ハ一條殿ノ家礼ナリ
ヤスル一今ニ有ル也父子ノ如ク親ムノ心也唐ノ李延壽
撰スル處北史第九十四卷倭國列傳曰倭國在百濟新羅
東南三千里於大海中依山嶋而居魏時譯通中國三十
余國皆稱子然シハ日本ノ國々ハ天子ノ臣ト稱セス子
ト稱タル一唐ニ迄モ傳ハリテソレ故國々ヲ生トアルニ世上ノ

神道者等此ノウムト云義ニサレフニリサニクノ異哉ヲナス
ハ何妻ゾヤ唐人サへ此子細ヲ知りタレ日本ニ在テ而モ神道
者ト号スル者此段ニ甚々惑ハ可嘆可悲然シ凡大方北史ノ
ヨメル神道者ハ益キモノナレバ笑モ不堪都テ可哀也是ニテ
國々ヲ生ト云ノ道理ヲ可明察 ○二神於是降居彼嶋
彼ノ嶋ハオノコ口嶋也實ヲ云時ハ是迄イヅ方ニ御座在クニヤ
傳不明彼オノコ口嶋ニ御出有リテト云ヲ本ノ処ヲ貴ヒウ
ヤミヒテアマクタルト云 ○因欲共爲夫婦產生洲國使以礮
取廬嶋爲國中之柱 若ニミトノクバイト云ハ人体交合ノ

美ニ非ズ日徳計リニテハスルドニシテ民不化天地陰陽ノ徳
天ノ陽ハ夫ト成リ地ノ陰ハ婦ト成リテ合熟シテ國土ヲ生ズ
ヤリニ夫婦ノ徳ヲ合シテ陰陽ノ徳ニ則リ是ヨリ隣國ノ嶋々
ヲウミ從ヘント思召トノ義也矣端軌道獨化三神ノ徳ニ則
日徳計リヲ以テ得玉ヒタルガ方ノコト嶋也ウヒクニスヒクニト
夫婦ヲ以テ天ノ日徳ヲ地ノ陰ヘ受テ物ヲ生ズ後ノ徳ニ
則リ是ヨリ國ミヲ生ズ玉ハトノ御相談也□ニトノクバセ
コトハ水ニテマハラカナル膏トハトガリテワヨキ音陰陽ノ二
徳也マクハ天ノ陽種子ヲマク也ハハ地ノ陰受テ生ナリ

人体ニテモ夫ハ種ヲマキ婦ハ受テ生ス譬ハマクハ因ナリ
ハハ果也ト見ベシ其國土ヲ生ズイカク大ニヒロリテモ
始メテ得玉ヲオノコト嶋ノ小キ本ヲダメニ忘レズハ御子孫
長久可成トノ御相談ニテ何程大國ヲ得タリ凡カノ
コト嶋ヲ不^レ忘心ノ内ノ國ノ中ノ柱トセシト思召是万世百
王不易ノ瑞也柱ノ字念ヲ入シテハシラト可續由音註ア
リ御夫婦ノ御心ノ柱ナル故敬テ讀セヌ也サナケレバ音
註ニ不及柱ト計ヨミテモスムー也依テ此所ノ念トモニト
ノマクバヒシテクニワケヲウマントスナハナクオノコロシマラシテ

クニノナカノミハシラトセントオボシテト可續上ニアル欲ノ字一
及リテオボシテトヨム也通用ノ本ノ急不冝俗學者オノコ
嶋ヲクルク行キ巡リ五クマリニ説肇アリ夫ニテハ中ニ
西國ハ行レサル也是ハタバコトノ初メノ御相談ヲ書ク物
ニテ直ニ嶋ニテ巡ルニテハ無シ此國ノ中ノ柱トセシトヲボスト云
ガ御子孫長久ノ宝勅ト云ベシ ○而陽神オカミ左旋サマダリ陰神カミ右旋マダリ
ワケメクテクニミハシラ分巡國柱同會アヒキヒトウツメテニ面 上ニハイサナキイサナシト神名ヲ顯シ
是ヨリ陽神陰神ト書テ神名ヲ不顯也亦是レ一傳也
前ニモ云如クオノコロ嶋ヲ得テ五ク遠ハ大陽ノ日徳ト云ノミ

御志ニカリテ向ケ玉ヘ凡是ヨリ御夫婦陰陽ノ徳ヲ分ツテ
政ヲ初メトシテ五ク改陽神陰神ト造化ニ象リ陰陽
右邊左邊別右轉左轉也今反之右旋左旋ノコトハリニ則リ國ノミハシラオノコロ嶋ヲ本
トシ分ケ巡ルヤリニシテ心アヒク陰陽又合一トナルヲ一ノ面ニ會
スト書タリ是ハ實ニ其ニ通りニテハ十ヶレ凡紀ヲアウラフ者心
得テ御志ヲ陰陽ニワケテ書クモノナリ ○時陰神カミ先
トナシテクマテ唱曰 陰陽ノ徳ハ相混セス天ハ天地ハ地ト其形千ハ分
シ凡理ハ一面ニ合熟シテ一ツト成ル時ニト可見陰神ハ陰ニ
則リテイサナシノ度也先唱ルハ陰カミハオクレベキ所ニ

却テ進ミ言ヲ奉ル也。唱ノ字唱和ト続テ此方ヨリモノ
ヲ云ハ先ヨリモ必答ル時ニ書文字也。詩歌ノ贈答ヲモ夫
故唱和ト云フ。陰神ノ方ヨリ言ヲイガナヒカケテ陽神ノ答
ヲ待也。唱ノ字和訓トナフルハイガナフハ訓也。○喜意哉
アトニヤシハアトニハマハ何レニヨミテモ不若アトハ歎ズル言バ
ニヤシハニヤワシ也。ニハマニヤワシノ畧ナリ。○アヒラムミレカトコ遇可美少男焉
可美ハイワクシムベキトノ義和訓ムマシ相熟タル心也。少男
ワカキオトコト云。又年ノワカキ義モアルベシ。
ナレハ少男ハ少陽也。畢竟陰神ヲ陽ヲ得テ悅ノ義可

美ノ二字ヲカケテムマシトヨマス。アトナリヨミテモヨシ書ハ可
愛氏書カヘテアリ。安藝國可愛川ヲアノ川トヨムモ同義ニテ
アハヨキ也。アム心ナリ此陰神ノ言必シモイガナシノ尊人体
ニシテ口ヨリ被仰出タルトハ見ルヘカラズ。陰氣既ニ少陽ヲ
侵サントスルノ譬ニテ直ニ問答有リタルニテハ無シ。陰氣サ
キダナスギテ伊弉册尊ノ御心ニ少陽ヲ侵スベキ芽シ
アルヲ云。是迄男女夫婦モアレハ男ハ上ニ立テ女ハ下ニ立ツ
ト云。差別無ク夕、心終ニシテ其法不定ヲ伊弉諾ノ尊
ヨリ夫ハ貴ク婦ハ賤ト道理ヲ分チテ云々ト云々トヘシ書タル也

レ勿体ナシトドモ物語ナリホノくト明石ノ浦ノ朝霧

ニ鳴カクレ行舟オシソ思フ舟ヲゾ思フ也レノ字心ナシコノ

類ヒト心得ベシ ○ムヘ宜以改旋アラタメテクル於是二神却更相遇カマテサラニメクリアヒヒマコノタヒハ是行也

陽神先唱曰アチニマ熹哉遇アヒマムニシ可美少女焉ヲトメ 是モ天地ノ理ヲ以テノ

ベタルモノニテカ陽ノ気慥ニシテ陰氣ニ不侵二神却テ巡リ

十ヲスト云ハ是レ迄ハ其礼不定ト云ハ此時ヨリ男ハ貴ク

女ハ是ニ從フベキ法ヲ立玉ヒタルトノタトヘテ也サレバ陽神ノ方

ヨリ先ヘ言ヲカケテ本文ノ如ク仰ラレタルモノ也本文ノ字義

ハ陰神ノ言ノ下ニテ叙セシト同シ此古凡未代迄傳ハリテ

モト本ハ男女ノ上下不分明伊弉諾ノ御時ヨリ相分フト云フ未代

ノ爲知サシメシタメ民間婚禮ノ時女ノ方ヨリ盃ヲ取上ケテ

男ニサス其盃ヲ男請ナカラ外ノ盃ニテ飲改メテ女ニサス

盃ハ三枚童子是ヲ三度宛巡ラシテ三々九度ノ礼有リ是

女ノ方ヨリサスト云理ハ毎レ二神ニ前ハ如是差別無リシ

カ凡ニ枚目ノ盃ヲ取テ男ノ方ヨリ改メテサスト云コレ少陽ノ

陰ニ不被侵故實ヲ殘シタルモノ也小笠原家神代ノ故實ニ

ウトク婚禮ノ盃ノ法ヲ定ムルニ初メ女ノサシタル盃ハ男ノミテ

又外ノ盃ニテ飲改メテサスマウニ成タル也古法ハ女ヨリサシ

夕ハ盃ハ男不飲下へ童子テ二枚目ニテ改メ飲テサス其盃ヲ
女疾ス時ハ男ウケテ飲也三々九度ハ盃ノ大法也左傳ニ七
酒ノ更ヲ九獻トシルシ延喜式ニ七初獻亞獻酬獻ト
各三獻ノ更有り是七九獻ノ義也此段ニ神ノ直ニ被仰
合タルコトニシテハ先唱テト云先ノ字ニ對シ陰神ヨリ後ニ答
曰ト云又每シハ難濟但し此時ヨリ男女ノ上下ヲ定メ五フト
可見一説兩方ヨリ被仰タレ言今テノ連歌ノ初メ也ナリ、
之ハ一向不足取説ナリ ○因問陰神曰汝身有何成耶
上ニ云如ク男女ノ上下ヲ定メ五フニ依テイザナシノ尊ヘイザ

ナギノ尊問五フトノ義也是ヨリハ陰神ノ名ヲカリテシカト人
体ノ二神ノ問答ヲ説ナリ如是女ハ男ニ從フベキト云フヲ定
シ上ニ其方ノ心ニハ何ト云心ノカタマリタル義有ルヤト問カケ
五フ也心ナレハ汝ノ身ト書タリ身ヲ立ルニハ心ヲ本トス其
心ノ成就セシ所ハイカドツトノ義也汝ノ字俗本ニイミシト訓
神武卷^{神乃神乃聖}云乃神乃聖ナリ、有ハ助諾ニテ其乃ノ字処ニ
依テ十二子氏説スル也イマシノ時ハ乃至ナド云乃ノ字ナリ
ナム子ノ時ハ人ヲサス諾ナリ然レニ此乃ノ字ヨリ誤リイミシ
ト云七十二子ト云七一ツノ更ト心得汝等ノ字ヲイマシト説

セ人ヲサス言ト心得点シタニ書多シ又可抱腹 ○對日

吾身有一雌元之處ヒトフメノハシメトイフトコロ 陰神ノ答ナリ一雌元惣シテ雌雄

ト云ハカ子マケノ変也オドリメドリノフト心得ベカラス軍

ナドニ雌雄ヲ決スルト云ハ勝負ヲ決スル也女ハ男ニ可負カ

男ニソフベキ元ノ処ト見付ケタニ徳是ヨリ外ニハナキカト

思フゾトノ義故一ツノト書タリ ○陽神曰吾身亦有雄

元之處思欲以吾身元處合ハシメトコロヲ汝身之元處トキキカミノハシメトコロ イサナキノ

御言ナリイカニモ吾身ニモ男ハ女ニ不可負ト云一ツノ処ヲ

見付得タリト答テ浴本雄元ノ上ニ一ノ字ヲ脱ス古本ニハ

アリ男ハ勝チ女ハ負ル此元サヘヨクシメテ置バヨシハナレクニ

テハ事成就セズ故ニ勝ノ理負ル理是ヲ一處ニシテ合セテ

勝氏負ル氏事ノ上ニテハ見ヘヌヤウ相熟クシテ夫婦ノ位ヲ

不亂可具也トゾ男女雌雄ハ理ヲ以テ云ヒ吾身ノ元ノ處ヲ

以テ汝ノ身ノ元ノ處ニ合スト云ハ事ヲ以テ云 ○於是陰陽

始ミトクダ造合ミトクダ為夫婦ト 其元ヲ糾シ其根ヲ深フシテ造合シテ

立テテトノ義也ト 是何故ナレバ夫婦ハ人倫ノ初メナレバ

リ貴賤有ルノ礼不行此時是ヲ定メ改メテ夫婦ノ礼ヲ

猶結構也ト 是遠ニ御夫婦ナレバイマダ国ニ其夫婦別有

トノ義ナリ是遠ニ御夫婦ナレバイマダ国ニ其夫婦別有

リ貴賤有ルノ礼不行此時是ヲ定メ改メテ夫婦ノ礼ヲ

猶国々ヲ生子トセト思召ニ其人倫ノ初メ正シカラサレバ
生得テモ是ヲ導教ルノ術無シ故ニ先佛身ノ上ヨリ正
シテ如是ト云心ナリ□俗學者一説此処ヲ陰陽ノ一斗ニ
説テ人体ヘカケザルハトクト神代卷ヲ不考故也又一説
吾身ノ元ト云ヲ男根陰根ノ交ト説テ此時兩方ヨリ
是ヲ合セテ交合被成ヌト説キ垂加流ノ内ニモ鳥谷
三藏説ニハ男ノ根ハ陽ナレバ一ト書ニ不及女ハ陰ナル故
念ヲ入レテ一ト書タリト云ニ女根ナリトテ二ツ可有義意
流字ノ本ヲ無理ニ註シタレ物ニテ不足取モトヨリ元來四十四代

元正天皇へ奏覽ノ書ナレ陰根ト陽根トフキ合セテ交
合ト云フヲ可書顯乎是皆其元ヲ正シテ云フト云道理ニク
ラキヲ以テ懼リタレモノ也 ○及至産時先以淡路洲爲
胞意所不快故名之曰淡路洲 如是其元ヲ正シテ云フニ依
テ初メ得テウ処ノ陽嶋ヲ本トシテ是ヲ産ト云然レトモ
イマダ大嶋ヲ産玉ハズワヅカ成小嶋ノ御手ニ入レバイニ
夕御志ノ通りニ仁化不被行致ト吾ガ身ヲ顧テ不快ト
思召大嶋ノ御手ニ不入バ不徳ノナス処トイヨク慎テ
是レ吾ガ耻ト思召スヨリ其嶋ヲ名テ吾耻嶋ト云後千

改メテ淡路洲ト書ス字ヲ改メタルハ二神ノ吾取ト被仰タ
ルヲ御子孫ヨリ恐テ改メタル也但シ小嶋ナリトイハレ是ヲ以テ
大國ヲウムノモトヒト思石ソノツ、不思石ニタトヘテ胞トスト
クニ胞不生ハ人不生小嶋ヨリ始メテ大嶋ヲ得ヌクノ心ニタトヘ
タルモノ也此ノ吾取ト已ヲ顧ヌクノ御徳ヨリ多クノ嶋々ヲ生
ストノ多ナリ ○スナナク 廻生ヲホマニト 大日本日本此云耶麻騰トヨアキフシニ
下皆效此 伊勢吉田垂加ヲ初メ古今ノ諸流トモニ是ハ今ノ五畿内
東山道東海道南海道北陸道スベテ四十五ヶ國ヲ一処
ニ云言也此時如是多クノ國々生シタリト云々今ヲ案ルニ二神

ノ時生ヌクハ西國扱ハ北國ノ中カシ斗リ西國へ連リタル処々
斗リニテ東ハイマダ不化然トモ國々ニ人民ハ有リ東ノ
化シタルハ神武ニ後也猶關東ノトクト化シタルハ十二代
景行天皇ニ後ナリ是ヲ慎リテ神代ヨリ東モ化シタルト
見ルニヨリテ天照大神ノ都ハ大和ノ國也ト諸流ノ註ニ
載タリ天照大神ノ都ハ今ノ豊前ナリ此更ハナリ真ニ
至テ證文ヲ引テ可ク亦此豊秋津洲ハ豊國ト号シテ
今ノ豊前豊後ノ兩國ナリ是天照大神ノ都ニシテ是ヨ
リ王化開ケ後ニ至リテハ大日本豊秋津洲ヲモ産ヌク

ベキ根ガシトナルノ処ト云我アキフシハ和加ノ一名トヨハ
豊前豊後ノ我豊前ノ都ハ終ニハ大和ノ都ヲ開ベキ根
本ノ地ト云心ナリ况ヤ大日本ト云字ハ後世ニ置ガレハスガ
幾ナリ是ヲ四十五ヶ国ト云説非ナル子細ハワヅカナル壹岐對
馬ニテ一嶋ク分ケテ書タル何ゾ四十五ヶ国ヲ一処ニ可書
マ能可思 ○次生伊豫二名洲 是ハ伊豫津彦伊豫津
姫トテ兩人ツカサドリタル嶋ナ故ニ二名洲ト云今ニ彼嶋ニ
イヨフヒコイヨフヒメノ社有リ ○次生筑紫洲 文字ニ
不可抱日本西方行及スノ嶋ト云幾ナリ風土記ナトニ八九加ノ

木兔ノ形ニ似タル也木兔

体木兔ノ形ニ似タルトテ木兔嶋ノ下畧ツクレト有レトモ
九加ヲ一ト眼ニ考テ其形ヲ見極ル事ニ難計故ニ今不
取之 ○次雙生隱岐洲與佐度洲 隱岐ハ續タル地
ヲハナレテ海ノ中ニ有ル我佐渡ハ瀬戸ノ轉語西嶋一日
ニ処ニ從ヒ来ルヲ人体ニタトヘテ之クフタゴヲ生ニ譬タリ
○世人或有雙生者象此也 八十七代後嵯峨院御講
世仁ナレバソレニ悼リテ二字カケテヒト、斗ヨムト云説有
レ氏世ノ人ト説ハ不苦人ノフタゴヲ生ハ沖ト里ヲ産ヌラニ
形リテト云ヤウニ本文モキコヘ説者モ其義理ニ説也然レ

雙子ト云モノハ日本ニ限リタニ変ナラバ右モ可有万国ニ有之義
ナリ隱岐佐渡御苦勞モ多ク一時ニ御手ニ入タニテ人
体へ准へ双子ハ目出度モノトテ昔ハ朝上庭へモ被石出ク
ダカレモノモ有タニテアリ日本ニテ双子ヲメテタキトスルハ
二神ノ御時一時ニ二嶋御手ニ入タニ御悅ヒカタドリテ
ノリ也 ○次生越前 今ノ越前越中越後能登加
賀是ヲオシナヘテ越ノ洲ト云トノ説アリナリ程右ノ五ヶ
国ハモト一國ニシテ都ヨリハ角鹿山ヲ越テ行ニヨリテ
越路ト云ト日本書紀ニモ出テ角鹿ト云ハ今ノ敦賀ノ変

ナリ然レシ此所ニアル越前ハ素戔嗚尊ノ御時ヨリ出雲
ト改号シタリ古史記ニ高志八岐大蛇トアルハ出雲ノ変
ナリ越後ノ國頸城郡ニ高志ト云所アリテ八岐大蛇ノ
因縁有ル社アリ然レ是ハ後ニ移シタニモノニテ此ニアルハ
トカク出雲ノ変也 ○次生大洲 是ハ肥前肥後
ナリモト号大洲日本書紀十二代景行天皇正後火國
トアリ三十代欽明天皇ノ卷ニモ火葦北トアルモ肥後ノ國
葦北郡ナリ此國ノ沖ニ時ナラズ火モヘテ熾熾ト云多ク
故ニシラヌモノワクシト歌ニモ説ナリ然トモ初メニ筑紫

ヲ生ムトアリシハ其中ニコモルベキ変ナレ氏今ノ九郡ヲフクナテ
見タルニ非ズ古来筑紫ト云ハ日向國也其日向ト云モ
後薩广大隅日向ト別シタリ其日向へ可行道伊助
ノ分ハ筑紫路ト云モノニテシラヌヒノワクシノ路ト云
心ナリ今肥前古名残り肥前ノ内ノ一嶋大嶋ト
云ヒ名テ今ニアリ ○次生吉備子洲 吉備ト云ハ後
世備前備中備後ト分レタリ子洲ト云ハ備前ノ内ニ
在ル一嶋古名残り 佐々木盛綱領分セシト云児嶋コ
レ也 ○由是始起大八洲國之號 後世日本ヲ大ヤシニ

ト号スル故其大ヤシト号スル本ヲハ神代ニ記シテ大國小
嶋ヲモ不_レ論強テハワニ分ケテ是ヲ八洲ノ起原ト後
子ヨリ立タんモノ也八洲ト云ハ後世國ヲ八道ニ割五畿内
ノ外ニ七道所謂東海道東山道北陸道山陰道山陽道
南海道西海道是ノ七ツ也夫へ五畿内ヲ入レテ八道トスル也
其元古キ所_レ以_レアルヤリニ書テ日本ノ八道ハ神代八洲ノ
カズニモトヅキタんモノト書記シタルガ日本書記縁起_ニ起_ル体
ノ文ト云モノ也惣シテ是ノ後チニ至ワテモ縁起_ニ起_ル体ノ文多
シ後ニ出来タル書ヲ後人アサク不_レ思_ハヤリ其根本ヲ

神代(書加へて置)ク類は是ヲ縁起体ト云ト考へて此書ヲ見レバ文面能クスモモ也

○即對馬嶋壹岐嶋及處々小

嶋皆是潮沫凝成者矣亦曰水沫凝而成也 對馬壹岐

ハ後世六十六ヶ国ノ外トナリ六十六而及二嶋ト記録ニ七書

コトニ成タリ然レハ當時ニ儀ノ取扱ハ對馬ノ至八国主ニ

立フ却テ飛驒ノ国ハ夕トヒ国主城主ニテモ儀ニテノ列席

国主ノ次城主其次飛驒ノ至壹岐ノ至ト云テ此ニ至八国城

ノ二字ヲ除テ被呼ま成タリ是ハ東照宮ニ後ノ御定

メニテ足利時代迄ハ飛驒ノ國司ト云リモ有レ也神代ニ

テハ壹岐對馬トモハナレ嶋ノ中ニテハ大嶋故名ヲ奉ケ其

外處々ノ小嶋ソレクニ名ハ有レ是ヲ畧シテ是等ハ夕トハ

潮ノカタマリテ海ヲヒサシメ嶋トナレヤリニ御苦方モ喜ク

御手ニ入りシ氏又ハカ々手遠ナル嶋々ナレバ水ノ沫ノ

凝ト云ハ塩氣ニ喜クテコル故大体ノ変ニテハ難凝余程

御苦方重テ御手ニ入りタル氏兩説ニ申傳フト云本文

ノ意ナリ俗學者ノ説ニ潮ノ沫水ノ沫兩説同意ナレ氏

古説ナレハ不捨シテ並ヘ奉ラレタリト洋スルハ潮ト水ト

ノ差別ヲ分ガレ説ニシテ不取之是迄テハ洲起原ノ

篇凡國初ノ篇凡又ハ産國神功ノ篇凡流義ノ依テ私ニ
題号ヲ立レト云ハト七古書ニ音キフニテイカニモ其題号ヲ本
文ノ意ニ何レモ不背トイヘ凡私ニ題号ヲ立レハ勅撰ノ書
ニ於テハ遠慮スベキ事ナリ但此書ヲ續ウテハ自然ト一
章宛ノ意味分ル、物ナレバ題号ニモ不及讀ム人ノ見識
ニ可ク依頼リニ題号ヲタテ、偏ナラシムベカラス

○次生海

次ニトハ大八洲及ヒ壹岐對馬所々小嶋ヲ
ウムトアレ其次ニト可見海アレヨリテ洲アリ國アリ國有テ
後チニ海ヲ可ク生理ハ言シ是ヲ以テ全体ハ二神開國ノ

即チ天地造化ノ即チ准ヘテ實ハ人体ノ上ノ幾多トハ造化ニ
カリタレ説ト可見譬テモ造化ニ不借ラレテハ國ヲ生ムノ
山ヲ生ノト云文体スマズ又人体ヲハナシテ伊弉諾伊弉册
トアレハ天地陰陽ノ支ト計リ説テハ國ヲ生テ後ニ海ヲ
生ノ道理不可濟凡此書ハ事理着帯ノ説ノミニシテ事ヲ
本トシ理ヲ以テ其事ヲトリ回ス心得ニ見レバ一部ノ意味ヨ
ク可ク通海ハモトヨリ造化ノ即チテ自在ス然レ凡此海人
用ニ立ツヤウニスルハ人即チ非レハ難成海ノ自在スルハ
造化ノナス所海ノ用ニ立ツハ人ノナス所ヤウニ眼ヲ付テ

可見二神國々ヲ生じ子トシ教ヲタレモウ正廟モ國々ニ民
アリ民アレバ自ラ長アリトイハ造化ノ終ノ天地ノ間ニス
ニテ人獸其用ヲ別ニスルノ功無シ二神國々ヲ子トシア
ワレモウノ依テ國々ニ住メル民ノ居室ヲ作り五穀ヲモ
耕作シテ造化ノ功ヲ人功ニテ取回スヤリト御苦勞ナカレ
惣テ國ノ難トモノハ水ニ過タルハ無シ堯舜天下ヲ治ルニモ
水ヲ治ルヲ政ノ本トシ五ヒ其事委ク書経後ノ書ニテハ
史紀二初當帝堯之時鴻水滔天浩々懷山襄陵下民其憂之
史紀ノ復禹王ノ本紀ニ見ヘタリ其水ヲ治ルトスルハ山ヲ能
トノヘサレハ民山下ニ在テ此難ニアヒ易ク山必水アリ此ハキ

ロナケレバ極メテ崩レカハルイ多シ故ニ山ヲ普請スルニハ川ト云物
ヲコレラ夫ヘ水ヲ流ス術ガモト也川ヲ堵ヘテモ其ハキ口壅レバ
其川郷里ニ溢シテ民ヲ害ス是故川水ノ海ヘ落ルハキ
口ヲヨク堵ヘサレハ始終山ノ水ハ滞ルモノ也山普請ヲナサレ
タメニ川普請ヨリ始メモウ也山ニ草木鳥獸アリテモ其ノ
道ヲ開カカレバ人用ニ不立故ニ人用ニ立ツヤウニ水ヲ治メモ
水ハ十間ニ一寸一町ニ六寸トス
ノ二神ノ功ヲ是ニ記シタムモノ也ト可見他流ニテハカヤウノ説ハ
ハ不成流義ニヨリテ海モ川モ二神ノ生出しモウヤウニ説ハ
淺間敷一也海ト云モノ元来アリし凡舟ノヨセ方風ヲ防ク入

海濱綱ノ用ナケレバ益ノモトナ^ル麻^{アサ}草ノ類ヒモ其佐^サニ
ハアラソト云婦人是ヲ績^{ウム}ト云テ捻^{ヒキ}リタメテ人用ニ立^ツル真^マ麻
ト云是ヲ紡^{フク}ト云モ文字カハレ此所ノ生ノ字ヲウムト云ト
後ハ同^ト変^ヒニテ人用ニ立^ツル海ヲモ山ヲモ元^{モト}ハアラフ海アラ山ナルヲ
人用ニ立^ツルヲ生^{ウミ}ヲト可見此時海ヲ生ズルニハ非ズ海ニウミ
タル用ヲ作りアテガヒ^クマ^ク也海ヲウミト読ハ國モ嶋モ
海ヨリ生ゼシムルノ人物草木一切ノ物其國嶋ニ依テ生ズ其
生^{ウミ}出ス根ハ海ナリ故^ニ生ト海ト訓ヲ同^スフス ○次生川^ツ
一説川トハカワルノ訓沅湘日夜東流トノ義ト同シク昨日

大ウ水

ノ水ハ今日不流アスカ川ノカハリ行ク体^{スガタ}ニ准ヘテカハルノ下
畧カハト云^ニ秋^{アキ}ニ此説ハ難^シ取カハト之訓ハ錢^{ゼン}ゼニ蘭^{ラン}ヲニ
ナド云ヨミノ類ニテ音ノ轉^{テン}ジタルモノニテ訓ハ非ズ河カハト
音ヲ引出シタルガ轉^{テン}シテカハト成タルモノニテ川ノ字ノ訓
ニハ非ズ字書ニ見レバ川^{セン}ト穿^{セン}ト同音ニテ土^ツヲウガチ水ヲ
ヤルノ心也日本ニテハ川ノ字古来カハトハ不^レ訓^目河ノ字ノ音
ガ川へ紛^マレ入タルモノ也川ハ書^カ書^カト讀テ日本書紀ニモ
夕^ツカヒツト云フニ川ノ字ヲ用ヒ^レ万葉集ニモ夕^ツキツセノツニ
川ノ字ヲ用ヒ^レタリ今假名ニ用ユルツノ字モ川也然^レシハカハ

止
病

ルノ訓ハ不谷 ○次生山 山ハ不_レ動モノ故ヤムト云心轉シテ

ヤマト云ト云カクテノミワガヲモヒラノヤマトラハ身モイタワラニ
成リヌヘラナル凡河内躬恒ノ歌ニテ即躬恒ノ家ノ歌集ニ
出ヒラノヤマト云ヌマウノ中へ入シテ戀ノウタヲ詠ケル也コレ

ヤマトニヤムト云心ヲ持セタル歌ナレバヤマトハヤムノ證歌ト可云

○次生木祖_キ句_ク句_ク迺_ナ馳_チ次生草祖_ク草野_ノ姫_{ヒメ} 如是山ニ

出生スルモノ人用ニ立ワマウニ不被_レ成_レ成_レ前ハ草木有リテモ
人山ニ入_レヌヌマウ得ズ其草木本人用ニ立_タサレノミニ推_スズイマガ上ニ
繁茂_シテ毛_ノ類_ノ心_ノノマニハビヨリ獵セザレバ人ヲ恐シズ民

ニ害_アレ_ルヲ甚_クタシニ神山ヲ人用ニ立_タマウニナサレシ為川ヲ

生_ミ川ノハキ_ク口_ノ為_シ海ヲ生_ミ五_ツ叔_コソ山ノ草木モ人用ニ

立_タマ_シ甚_クシ人木ヲ以_テ居_テ宅_ヲ構_ヘ草ヲ以_テ屋_根ヲツキ

穴_居ヲマ_カシ_テ今日_ニ至_ル迄_ニ貴_賤其_ノ思_ヲ奉_ル此_ノ時_ノ

ニ神ノ神恩木ノ人用ニ立_タマ_シ恩_ヲ思_フ氏ハ伊弉諾尊ノ

御_徳ヲ本_ノ祖_句句_ク迺_ナ馳_チ神ト拜_シ奉_リ一_切ノ草ノ人用

ニ立_タマ_シ當_フテハ伊弉册ノ尊ノ御_徳ヲ草ノ祖_草野_姫

ト拜_シ奉_リ全_ク伊弉諾伊弉册ノ尊ノ外ニ二神有_レ非_ズ

二神ノ印ノ草木ニ止_ル所_ヲ名_テ是_ヲ句_ク迺_ナ馳_チ草野_姫ト号

カリニ草木ニ分ケテ木ノ祖ハ伊弉諾草ノ祖ハ伊弉册ト云フ
 レ氏ニ神ノ印ニテ草木ノ人用ニ云フ所ナレバ分ツヘキヤウ云シ
 然レレ木ハ高ク草ハ下キモノナレハ高下ヲ以テ男女ノ位ニ
 分ケタレ也子ハフミ歟ツミノ及シキ也是祇草ノ心向向廼馳木々ノ祖父ト見レベシ木ト向ト通
 音ナリ草ヲカヤト訓ム云々必ス茅萱ノカヤニ不可限今
 木ノ實ヲカヤノミト云時ハ草木ノ實ノ通名也和名鈔
 八因幡ノ國大草ト書テ於保加也ト説セタリ古来カヤ
 ト云ハ草ノ惣名ナリ唐ノ書ニモ聖人ノユトヲ通化存神
 ト云テ聖人ノ通り五ヒ或ハレバラクモ住ユウ所ニハソノ化
 行ハレテ自然ト神ヲ存スルトテ云ニイハレヌ印ガ殘ルモノゾト
 書テ置ガ如ク二神ノ御徳其事ニフレ此事ニ渡リテ一々其
 印ニ神名ヲ付テ一書ニ至フテハサマノノ神名アリ別ニ神ヲ
 祢スルニハ非ズ其印ニヨリテ神名ヲ跡ヨリ奉リタムモノナリ
 □通用神道者向向廼馳ト云ハナカキ柳ノ葉草野姫ト云ハ茅ノ
 葉此二種日本最初ノ草木ニテ奇妙不思議ノ神徳
 備リタル草木故是ヲ神事ニ用ヒ柳ニ靈威有ルモノ
 故神木トス茅萱ハ至極清淨ナル物故ニ神宮ノ屋根
 ヲモ神國ニ限リテ是ヲ用ユ故ニ此二種ノ草木ノ始テ生

シタニ所ヲ名テ向向迺肥草野姫ト云ト云ソシ堯舜ノ宮
室茅茨不伐トテ茅葺^{マクキ}ニテ端ヲモ不揃シテ葺タルト云
書經ノ説ナリ何ソ吾ガ國ニ限ルト云ハヤ其上吉祥茅草ト
云テ是ヲ編テ佛座ニ敷テ釋氏要覽ニ出又結葺ノ僧
茅草ヲ座トシテ解葺ノ後是ヲ檀家ナトニ賦ル云モ叙
氏要覽ニ見ヘタリ云々茅草ヲ名テ解葺草ト云日本ニテ
ハ恒リテ少連菜ヲ解葺花ト号ス是ヲ吉祥茅草ニ誤
リ佛ノ座ト呼ビ七草ノ一種トス解葺草ノ葺^{マクキ}氏要覽
下卷疔ニ見ヘタリ儒ノ家ニテモ茅草ヲ吉事ニ用ヒ白茅ヲ
禮建ニ用ル葺^{マクキ}易ニ見ヘ詩經小雅ノ篇ニモ菅茅ト續テタリ何
ソ日本ニテニ限ルト云ハヤ茅一カヤフキト云ハ何ニテモ草葺^{マクキ}ノ
葺也上古質素ヲ示シタル葺^{マクキ}ヤリ也今伊勢ノカヤフキ是
ヲ刈^刈ニ其礼仪夥シク數百日ヲ経テ刈^刈タメテモ血ヲ下スコト
アレバ其茅悉ク益ニ不^不又薊^薊及ムル故ニ世ノ諺ニ十日
カリタル茅モ一日ニ空シト云々如是ナラバ質素ノ体ト云ハヤ
□^{サカキ}龍眼木日本ニテ是ヲ神芝^{サカキ}ト云ル故神木ト書シガ合字
ニシテ柳ト書ヤリニ成タリ^{論語八佾}哀公問社於宰我宰我对曰
夏后氏以松殷人以柏周人以栗云々社ハ其國ノ神ヲ祭ルノ

地笈ノ代ニハ松ト云モノ四季色ニ色不易カモノナレバトテ是ヲ多
ク植テ其中ニ神ヲ祭ル殷ノ代ニハ柏ト云モノ是ヲ色ヲ不易
故社ニ用ユ柏ハ日本ニテ之種ト云木ノ類ニテカヤカレハノ類ニハ
非ズムロト云木常盤木也周ノ代ニハ常盤木ノ論多ク栗
ヲ多ク植テ社トス箕殷ノ代ハ上古ニテ恐ルモノト云ハ人敬
シテ不逆周ハ三代ノ未故其ブシテハ^{ナカキ}狎易キヲ以テ民ヲシテ社
ヲ不侵ヤウニ戦栗ナラシメト示ノ為ニ栗ヲ植タリ戦栗ハオ
ゾオソルノ義也日本ハ箕殷ノ礼ノ如ク色ヲカヘサレ龍眼
木ヲ以テ社トス別而日本ハ國々所々村々ニ至ル迄神ヲ祭

処ナレバ何方ノ山ニモアリ易キモノヲ社ニ定メテ神ヲ用ヒタルナリ
神ノ訓サカヘギニテ繁茂シヤスキノ意此木ニ神靈アリニテモ
神ノ經ニ云フニテモ益シ常盤木ヲ用ユルハ箕殷ノ凡也松柏ヲ
朱注曰三代之社不同者古者之社樹其土之所宜木以為主也
不用シテ神ヲ用ユルハ日本山土相應ニシテ多ク有ル物故也社

^{大傳}ヲコソト訓シ社ヲモリト訓ス是レトリ違ニテ社ハコソト云木
ナリ常^{ヒク}隸ト号スル木也社ハ古訓モリ箕殷周ノ社モ木ヲ多
ク植テ其中ニ神靈ヲ守護ス吾ガ日本モ古来山ニ神ヲ集
メ植其中ニ神靈ヲ祭ル是ヲモリト訓スルモ神ヲモリ奉ル
義ニテ古ノ社ト云ハ人テノ如ク殿ヲ立テタムニテハ益シ神ノ多

キモリヲ云也世上神道者ノ云如ク榊ハ靈異有ルモノニテ日本
木ノ初メナレ故是ヲ白白迺馳神ト云説ノ如クナラハ復ハ代
殷ノ代ノ松柏ニモ異國ニテ聖人賢人ノ名アルベキヤ草木ハ
非情也何ゾ是ヲ神トセニヤ是ヲ神トスルト云説ハ草木國
土悉皆成佛ヨリ出テ吾古凡ニ非ズ吾古凡ハ佛法未渡
己前ノ支ナリ至ツテ賤イカシキ説ニ成リテハ神前ハ榊ヲ立テ
ソナヘ物トス花ヲ供スルハ佛家ノ凡ト心得テ此ノ代リニ榊
ヲ花瓶ニ立ル也神代上卷一書イサナギノ尊祭ル段ニ花
ノ時ニハ花ヲ以テ祭ルトアリ正月元朝天子四方拜ノトキ

ノ日本ノ机ノ上ニ香花ヲ供シテノ四方拜也江次第ノ類考へ
可見花ヲ以テ祭ルガ神変ニ忌変ナラバ神代ノ卷モ及古
成リ天子ノ四方拜モ日月星辰ノ祭リニ不可叶哉榊ハ
冬ニ其社シヤノ古實ニシテ立花ノ代リニ用ユル物ニ非ズ此ノ
義ニ暗ニ依テ木ノ神草ノ神ノ説垂加延佳トイヘドモ
悞リヲトシテ抱腹呵々 ○亦名野榊 イカヅナナド云フ
ツチト同じ子ニ横音通スル故ツチハツミト同じク祇ノ字
ノ意草ハ野ニアルモノ也野ヲ司ル神靈ナレバトテ野祇ト
云ベキヲ野榊ト云ナリ榊ハ訓ヲカリタニ迄ト心得ベシ右已上

国々ヲ生テ子トシ山川草木其國々ノ子ノ為ニ用ニ之ヲヤリ
被成タル仁惠ノ政ヲノベタル文ト可見 ○旣而伊弉諾尊
伊弉册尊共議曰 是ヨリ御子數多トシマス其御子ハ御
實子ニシテ是迄段々御出生有タルヲ其器量ヲ考ヘ其ノ
人ニ相應ニ可治天下ノ職ヲソレクニワリ付テ化シテ段
ナリト心得テ見レバ能スム也 □俗説ニ二神ニハ一女三男ト云テ
御子四人トシマスト云説ハ甚タ怪リ也此ノ外御子數多ア
リ神代卷本文一書ニモ其外旧記等ニモ間々見ヘタリコノ
所ニ奉タル四神ハ其中ニテ天下ヲ治ムルノ大役ヲ被仰付
タル分ニ斗リ奉テ書クモノゾ其證據ハ此所ノ本文ニ天照大神
ノ御変ヲ奉ルトテ吾息雖多^{ワカユイニサナリト}云ニ是天照大神ヨリ前ニ御子
數多アルトノ義也俗世ノ者是ヲ疑シテ天照大神ハ御嫡子
ニシテ此所ニ御子有ルベキヤウハ無レ凡國々并ニ山川草木不
生^{ウケ}テ吾息^{ワカユ}多クト仰ラレタル義ト云ニ何ゾ山川ト人トヲ
兄弟ニセシキ日本書紀ノ本意ヲ熟得セザル故ノ怪リト云
ベシ ○吾已生大八洲國及山川草木何不生^{ウケ}天下之^{キミ}主^{ミコ}
者歟 天ノ浮橋ノ段ニテモ共計テト有リ此所モ亦共ニハカリ
テト書タリ御夫婦御心ヲ合セ徳ヲ合シテノ御相談ナリ

大八洲并山川草木其大八洲ノ民ノ用ニ立フヤリニ被成
タレ是是ヲ一統スル主益シバ^{アラフ}平トモ^{カク}諷人善ク乱ルレ治メ鎮
ベキ人ナカルベシト御子數多マシニ内ニ^ニ次子ニ^ニ不抱天子
ト成リ五フベキノ御子ヲ見立テ是ヲシテ殘ル御兄弟ヨリモ君
ト崇メサセ^{ソシテ}育ヤウモ恭シク^ニ育玉ハシト考ヘ^ニ五フ^ニ女子ナレドモ
各別ニ御徳勝シクルヲ見立テ天子ノ通りニ崇メ育玉ハ^ハ果
シテ其女子造化ニテイク日ノ四海ヲ照シテ私益キガ如ク天
下ヲ照シ治メ其徳ノ光明至ラカレ処益キ故是ヲ日輪モ同
然ノ御人ト万民モアガメタル故日神トシレシ徳^行天ノ日徳

ニヒトシキ其御靈ヲ御子孫ヨリ祭リ^ヲマヒテ^ハ大日靈貴ト
謚シ奉リ是ヲ漢文ニ書テハ天照大神又日本ニテ猶々敬テハ
天照大日靈尊トモ^{アミテラスヲホヒルメノミコト}謚シ奉ルモノ也何レモ御徳ヲ日ニ准ヘテ
後ヨリ号スルト可見^ニ御在世ノ御名イカバ不傳俗學者
天照大神ト云ハ御在世ヨリノ御名ト心得其上此段ヲ四神
出生ノ篇ト題シテ此時ニ皆々生シ五フヤリニ^ニ諷ハ愚成説ニ
シテ不足取右此段ハソレク^ハ役割ヲ^{アゲワリ}ナサリ、段ト説^ク又
多クノ旧記ニ考ヘテ秀樹考^ヘ出シタル説ナレバ他流ニ不知ノ
説ナリ ○於是共生^ニ日神^ニ ^{ウミツリノスヒノカミ}コノ魚ヒノカミヲト訓^{ヨミ}テハ

此時御出生ノ後トナル也當流ヒノカミニウミワリニスト詠ガ
秘急ナリ天ノ下ノ主ヲ生サラシマト云ハ御子ノ内ニテ天ノ下ノ
至トモナラセウケベキ御神ヲ見テ天子相應ノ御育ニ不被
成シテハ叶フニシトスナハテ即御女子一人是ヲ見テ天子ノ格式ニ育
ルゲウク我ヲ日ノ神ニ生ト云日ノ神ハ天子ト云ベキヲ日本文字
毎キ時天子ト云古名日ノ神ト云也生ト云ハ彼ノアラ麻ヲ真
麻マ績ユムト云ト曰し心ニテ育ソダテルゲヤウノヲ也イカニ神代ナレバ
トテ日ノ神ヲ可生ト相説シテ思フヤウニ生ルモノニテハ世シ
育ソダテルゲノヲト見テ能スムナリ夫故日ノ神ニトヨミサレハスミス

○號大日靈貴

ヲホヒルメノムナト 大日靈貴此云於保比屢咩能武智靈音カ丁反一書
云天照大神一書云天照大神

貴ハ神代卷ノ内此ノ大日靈貴稚日女貴大已貴此亦不遺稚
日女貴ト云ハ天照大神ノ妹ノヤウニ神代卷ニテハ見ユシ氏實ハ天
照大神ト一神二名ノ号アリ其妻ハ天ノ岩戸ノ篋ニテ妻アリ可
弁ムナト云ハ人ヲサシイラス圖ルノ義日本ノ声母ニテ説ク時ハムム
ワシムスブナト云テシタシム言ノ母トナリ千ハ千ん訓ノ母千ん
千ガフノ類ニテシタシムモ千ラヌモ進シ退タイヲ上ニ在テ教ルノ尊
乎也此靈ノ字コノカミ女神ニテマシマセ氏天子故日神ト
書タリ日ハ陽ノモノ故日神ト云カラハ男神ニテ可有カト

後ノ人異説可起ヲ用心シテ念ヲ入テ此雲ノ字ヲツカイタリ
全体アトヨリ及第ル時靈ノ字ヲ用ルルナルニ其靈ノ字ノ曰
音ノ字ノ中ニテ女ニ從ヒタル字ヲ撰テ此ノ雲ノ字ヲ用ユ
ハ靈ノ字ノ及ニテ女神ト云々ヲシラス也故、音註ニ雲ノ
音カ丁ノ及シト書タリ此雲ノ字持ヘノ音カ丁ノ及シナ
レハ音註ヲ付ルニ不及ソレニ此音註ヲ付タルハ靈ノ字元来カ
丁ノ及シナリ曰ジカ丁ノ及シノ字ノ内ニテ女ニ從ヒタル字ヲカリ
テ女体ヲ證スルトノ及也一書カニ至ワテ龍雷ノ火ト云テ陰火
ノ靈ハ神名ニトル時靈龍ノ字ヲワカヒ其所ノ音註ニモカ丁

ノ及シトアリ是モ文字ニテ龍雷ヲ知ラセカ丁ノ及シテ靈
ト云々ヲコトハリタルモ此所ト同シ實ハ第一男蛭兒尊ニシテ
天照大神ハ妹ナリ一書ニハ蛭兒ヲ弟一、生シ五フヤウニ書タ
リヒルユヒルメ男女ノ違ヒ斗リニテ日德ノ位ヲ持チ五フベキ
一男故ヒルユト云ハ日兒ト書ガ正字ナリ然レモ武勇不
定天子ニ立チガタキ所アル故妹ヲ立テ天子トシ五フ故、妹
ヲヒルメ是モ正字ハ日女也天子ニ成リ五フ故大ノ字ヲ加ヘテ
大日女ト云然レハ天ニニフノ日無ク国ニ二人ノ王無キ道理ヲ
以テ天子ナラガルヒルユハ日ノ字ヲ憚リ和訓ノ曰ジギヲ以

蛭兒ト書クニ迄ニテ字ハ後ニウヘタル物ニテ訓ガ本ナルト可
心得然ルニ世上ノ神道者垂加延佳ヲ始メヒルコニ蛭ノ字
ヲ用ヒタルハ此ムシ屈伸ヲ自由ニス伸タキ時ハノビトナリ度
片ハ千ニマル故ニ蛭ノ字ヲ用ヒタリト此道理ヲ長キト巻物
シテ叔本文ノ紀ハ第一トシテ一書ニハ第一ニ書クニ是ハ同
名異神ニテ子細アル変ト書記シイカメレク書傳フルヒルコ
傳受ト云変アリ是レ全ク縦横ヲ不知本文ノ紀ハ兄弟
ノ論ナリ伍ニ即^{ツキ}五ヲ以テ上トシ一書ハ其差別ヲ立テ
實ハヒルコノ尊兄ニテマシマス由ヲ知セタル是ヲ以テ神代卷

ノ横トス殊ニ屈伸ノ自由ニスルナド云説ハ日徳相兼久
ヲ以テ天子トス故ニ其外ニ惶テ日ノ字ヲ不甲和訓ナリ
ヲカリテ又字ヲカヘテ書クニル云処ナリ心ノ付カレ説取ニ不
妥ノミ
○此子^{コノコ}光^{ヒカリ}華^{ウツク}明^ミ彩^メ 御^{ミコト}徳^{トク}ノ照^スシテノコト
ナキヲ文ニ准ヘテニじカク書クニモナリ光華明彩ノ四
字明ノ字ニ光ニ依テ生シ彩ノ字ニ華ニ依テ生スルト可見光
明アル故ニ華彩アリハナト云ハ光ヲウレハレキ彩ヲ彩ト云
クニ明ナルノミニ非ズイワクシクカサリ立テタルヤウニカマク
心アリソレヲ一^レ所^{トコロ}ニ列テ光ヲウレハレクニヨム也

○照徹於六合之内

六合ト云ハ天地ノニワニ四方ヲ合セタ

ル我儒家ノ書、何ニ程モワカヒクニ文字ナリ中ニ庸ナドニモアリ照徹ノ二字ハ此日徳ノ光明照シヌキテウラヲモテ毎クテリトホルノ義徹ノ字裏ウラヘヌテ通トモ心アル字也六合ハ造化ニテ云ハ万国不レ殘ノ義ナシ天照皇大神ノ御徳ニテ云ハ吾日本国中ニ可見 ○故二神喜日吾息雖多

此文ニ是迄御子數多アリタリトアレバ前ニモ云如ク天照大神ヲ第一ノ御子トハ不可云他流ノ如クコノ御子アリタリト云ハ国々山川草木ノコト云説ハ不可取義

前ニ妻ク如説多ノ字サハト訓スルハ日本ノ古語ニテ物ノ多キヲサハト云ソシ故今澤山ナド、沢ノ字ヲモワカウ也

○未有若此靈異之兒 靈異ノ二字ハ常人トハ各別ノ

処アリテ言ニハ云ニイハシヌト云奇々妙々ノ体ナリ此靈異ノ二字ヲクシヒニアマシキト訓ハ櫛コシノ齒ハヲモトホリテ光リテ

ナス日輪ノ如クイカ散ル所ヘモ照リヌカズト云フニ毎キ心ナリ異ノ字常トカハリ善ヨキニモ惡アヒキニモワカフ字ニテ上下ニ付タ

ル文字決テテ義ヲトル也靈異ト云ハ不思議人並ナラヌ可怪バカ禊ノ徳ト云義ニナリ怪異ト云ハ化物ノ類

ノアヤシキ一也夕トヘバ足ノニツアル鳥頭ノニツ有ル鹿ナド
是レ皆怪ノ字ヲワカフ化物ナリ怪ノ字モ妖怪トワカハ
幽霊木霊見ニミヘ又処ニ声アルモノナリ怪ハ常ニ有ル物
ノ上ニテアヤシキ也妖ハ常ニ奇キモノ也異ハ常ニカハリタ
ト云義ナリ是ノ見分ケテ考ヘ可知然レハ霊異ト
云片ハ言ニハ尽ミサレヌ生レ付ニテ常ノ人トハ君ナスベカ
ラズト天照大神ヲホメテ言也 ○不宜久留此國
自當早送于天而授以天上之事 宜ノ字ムベト
訓変歌ニ吹カラニ秋ノ草木ノレホルレバ宜山凡ヲア

ラレト云ラレ吹故ニ秋ノ草木ハレホル、宜クモ山凡ヲア
ラレトハ云初ケルヅトノ義アラレハ吹アラスノ心ナリ又神

代卷本文ノ内ニ諾ノ字ヲモウメセト訓セタレ処アリイカモ
神武卷云天照大神曰諾 諾此云字每那利

トウケガフ言也是モムベ山凡ノムベニワカヒテモ義ハ曰レ右ノ
如ク霊異ニテ常ノ民トハ群スベカラズ光花明彩ノ御子
ナレバト稀シクテ万民是ヲ信シテ日ノ神トウマテテ故ニ自
カニ早都ヲ送テサヅクルニ天子ノ職ヲ以テスベレト云々
本文ニ送于天ノ三字ハ都ノ義下ノ天上ノ二字ハ其時イマ
ダ禁中ト云テハ益シク禁中ノ王座ニシテ政ヲトラレメ云

トノ後ナリニ神迄ハ諸國ヲ子トシ教ヘ導キ自上下ノ
別ハアリタシトシカト天子万民ト令フ程ニハ無ク親ク座
ニ天子ノ位万民ノ位不相分天子ノ靈ヲ祭リテハ天神ト之
臣下万民ノ靈ヲ祭リテハ地祇ト之フ其差別イマダ定ラス
故ニ本文 ○是時天地相去未遠故以天柱舉於天上也
天ハ天子ナリ地ハ臣下万民ナリ唯親子ノ礼ノ如ク君ヲ君トシ
臣ヲ地トスルノ境ニ相去ル末遠ソレ故天照大神ヲシカト
天子ノ初メト立テ臣下万民ニ崇メ仕ヘシム然レハ二神ソノ
カニ殿取盧嶋ヲ得玉ヒシ時イカ計大國ヲ生五フトモ其

本ヲ忘レ玉ハズ此ヲノコロ嶋ヲ御心ノ内ノ國ノ中ノ桂トシテ
巡ルヤリと思召トノ御誓アリシヲ以テ天照大神ヲ天子トシ
奉ル時其本ヲノコロ嶋ヨリヲコリシ元本ヲ忘レテカ
ズト御相傳アル是ヲ名テ天ノ柱ト云天子ヨリ天子ヘ御代
ヲ禪リテノ神道相傳ノ大事ハ此天ノ柱ノ二字ニアリ然レ
凡深キ義ハ無シ右ニベタルガ如シ淺キヤト思ヘバ其元本ヲ
忘レガレノ御傳受神道ハコレニ止マレノニ如是ノ大事アル
神道ヲ巫祝異説ニヲトシ本意ヲ失フハ恐シ可奉一也
二神モ天照大神モ私ニハ事ナシ玉ハズ臣下万民是ヲ仰

奉りて一同ニ天子トシ上ニ天子奉ノ字一字ニコメテ此舉ノ字
何レモアゲテ敬ヒカレヅクノ心アリニ神ノ御心ニ靈異ノ子ト
思召ヲ臣下万民同意シ奉リ舉^{キヨ}シテ是ヲ天子トス是ヨリ
君臣明ニ分ト云ヘ天柱ノ御傳ハ國々ヲ子トシテ初メヲ
傳ヘ授ケテ故ニ万々世天子ノ御位不易ナレバ國々勝シ
父母トス故ニ万々世天子ノ御位不易ナレバ國々勝シ
右天柱ノ神道ヲ以テ建^{タテ}テ國ナレバトテ神國ト号スルモノ
ナリ ○次生月神^{フキウニツリスツキノカミニ} 是モツキノ神ニウミニツリニス
ト可訓月ノ神ヲト不可訓是天照大神ノ御弟ニ

テ其德天照大神禰ニハ坐子トモ日德ニ次キテ政ヲ可

執ノ德アリ故ニ月ノ訓ハツギ也又ツクル心アリ日ハ圓滿

ツヒトツフタツツキハキツル三十日^{掬月定也}朔日^{ハツイテツクハツニツ}

シテツクル片無シ月八日ノ光リヲ受テ盈虧アル^{支前}妻

朔^{ハ月初一日}初^ノ名^朔蘇^ノ説^文月一日始蘇故月初一日為朔又初也^{禮運}皆從其朔

糸スレ通リニテ御弟ナガラ臣下ノ頭ト成リテ此故事ヲ

又朔方北方也^{虞書}宅朔方曰^{函都}又畫也^{正義}朔畫也^{万物盡於北蘇而復生也}

以テ今ニ三位已上ノ公卿ヲ月^卿ト稱ス月ハ已レガ光リ

非ズ臣下何程ノ威勢有リテモ己ガ威勢ニ非ズ月ノ光

リハ日ニ受テ臣下ノ威勢ハ天子ニ受ク此ノ引合スル夕

トニテ月ノ神ト云テ了解スベシ此ノ所以^{ユエン}ニテ元服ト

云々又異國吾朝俱ニ其義ヲ同ス禮記ノ注ニ冠儀篇元

冠儀篇元

頭ヲ剃ヲ元服氏月代氏貴タルハ非ナリ今テノ如ク西鬢
斗リ殘スヲ月代ト心得タル人ノ説ニ云ク月代ハ源平合戦
時分ヨリ是アルト見ヘタリ大平記ノ合戦時分ニナリテ專
ラ能武士モソリタルト見ヘテ大塔ノ宮熊野落ノ段ニ何
シモ山伏ト成リ殿ノ兵衛ト云者ヲ頼セ五ハ兵衛御味
方モフシテ御宿申ス併供ノ内矢田彦七アラアワマト云
テ頭巾ヲトリタシバ月代ノ跡青々ト見ヘタリトアリ是レ
西鬢斗リ殘シテ剃タル證據也ト云ニ能ク可思山伏ノ
頭巾ニテ惣カシラノカクルモノハ惟ズ是ヲ取タシバ額ノ

半月ナリガアラハシタルトノ義也ソシヨリ古キ書ニハ尾張ノ僧
益住法師ノ砂石集ニ此項ノ書道心ト見ヘテサカマキノ
アト見ヘタリト云ノ有リ是モ額ノ角ヲヌキタル跡ノ支
ト云義ナリ夫僧ハ釋氏ノ子ニシテ天子モ臣トスル支不能
唯是身ヲ佛院ニ任セ光リヲ如來ニカリ国君ニカラズト
云心ニテ月代^{ツキ}代^{シヨ}不入トノ義ナリ僧トシテ君ニラモ子リ臣僧唯
ト記シ官位ヲ食ム臣僧ト稱シテハ額ニ月シロヲ入レズバ有
ヘカラズ佛法モ未ニナリタルマトニ支宇治大納言隆國卿
ノ記ニ見ヘタリ月代ノ支益益ノ論ニ似タシ氏月ノ神ヲ

以テ臣下ノ頭トスル者ノ道理ヲ述クタトヘテ説ク爲アラシ
ニ亦ス今俗間兩鬢斗リ殘ス者ハ足利尊氏天下ニ統
ノ後ノ凡也尊氏ト執事高師直ト争ヒアリ不意ヲ討
レテ尊氏法花堂ト云所ニ籠リ我運モ是迄ト既ニ剃
髮ナサレシト半ハソリタム時和睦トノヒ夫ヨリ兩鬢斗
リニテ坐セシト云説アレ氏室町家ノ記録ヲ考レバ尊
氏頭執ブチ甚シク皆剃モヒテハ僧ノ体ト成ル故頂上斗リ
少レソリテ烏帽子冠ヲメセバ其処ノカクルマウニ被成
シヲ近習ノ衆此ノ凡ヲ真似テ誰モソリタム由見ヘタ

レバ此説ヲ可用

○一書云月ツキ弓ユミ尊 半月ノ額ノ如ク月

ハ圓滿十九ガ本ノ体ニ非ズト臣下ヘ教タム名ナリ

○月ツキ夜ヨミ見ミ尊 天子ヲ日ニタトヘ日ノ晝キ時月是ニ代リ

テ照ス日ノ光リヲ受テ下民ニ向テハ光リ有り日ト並ビテハ

光リ無シ故ニ月ハ夜ル見ユンモノゾト日ニ並バガル者ヲ示シ

タム名ゾ ○月ツキ讀ヨミ尊 日ハ常ニ圓滿ニシテ乃盈虧ナキ

モノ故月ノミチカケ出入ニテ朔日十五日ト云日ノ數ガ讀

テユカル也天子ハ恭シク直ニ事ヲトリ玉ハズ弟一弟二

等ノ臣下能程ニ政ヲトリテ天子ヲ輔ホ佐サス是ヲ月ノ出入

ニテ日ノ數ヲヨムガ如キニタトヘクニ神号也。□月ハ陰也然ハ
女神ニテアルベシト云説アリ非也。万葉集ニモ月讀ノカワラ
男トヨミタリ男神ナレ支諸ノ旧記ニ出テ疑フベカラズ天
照大神ハ天子ノ位ニ即五ノ月讀尊ハ是ヲホサシ玉ヘト
二神ヨリ職ヲ分テ其人品相應ニ勅任アルノ事ト可見
他流ナドニテハサマク説ヲナシテトリシラズ今説ガ如
キニ非レハ天ノ月ノ事モ人体ノ事モ不分カトカク神代卷
一紀化物吐トナリユクセ日ノ神ト云モ月ノ神ト云モ謚号ヲテ
其御徳ノ謚リ号ニヨリ御實名ハ不傳ト可知

○其光彩亞日可以配日而治故亦送之于天

天照大神ニ光彩華明彩ト四字置キ其中ノ花明ノ二字
ヲ畧シテ上下ノ二字斗リテ切テワカヒタル物也是程ノ文字
ノワカヒ分テテ天子ト臣下ノ徳ヲ分テ心ハ光花明彩ト曰シ
亞日ハ亞聖ナドニアリテ日ニ從ヘテ政ヲ執ラシムル也配ノ字
ナラベテ訓ハ悞リ也日ニ從ヘテト云心ニヨムベシ依之是モアタニ
アグルトテ都ヘ送り天照大神ノ輔佐トシ玉フ也二神ハ
淡路ニ坐シシカト其時都ト云程ニハ奇シク先ハ淡路
ノ津名ト云所ニ宮室シ玉フ是磯取廬嶋ノ隣ナレバ

也天照大神ヲ天子トスルニ付テノ都ハ今ノ豊前ノ中
津ナリ世ニ傳ヘテ中津國ト称スル是ナリ天照大神ノ都
ヲ大和ト称スル説ハ是ヲトラズ何レモ淡路ヨリ今テノ
豊前へ送リテ天子ノ位ニ即ク輔佐ヲモナシムル故アメ
ニ送ルトハ書タルモノ也凡ソ淡路ヨリ豊前へ至ルニハ讚岐ヨリ
伊豫ヲ経テ伊豫ノ大須ヨリ豊前ノ國へ至ル又淡路ヨリ
備前備中備後安藝周防ヲヘテ豊前へ行也豊前
豊後ト一國此豊前ト伊豫ト向ヒ合セテ天照大神ノ
都ヲ豊前ニ建テ其御靈ヲ伊豫ニ祭リシ也伊豫ニ祭

リシ子細ハ天ノ岩戸ノ章ニテ委ク可レ弁 ○次生蛭兒雖
巳三歳脚猶不立故載之於天磐椽樟船而順風放棄
コノ蛭兒ハ一男ナレバ海徳和彥ニシテ天下ヲ知食程武
徳ナキ故三男ニ比シテ天照大神ヲ弟トス夫ハ前ニモ云ク
一書ハ實紀故蛭兒尊ヲ兄トシタリ如是ノ所ニ至ワテハタテ
ヨリ引合セ考ヘ可見能ス也然レハ全体縦横ト云マテ
明カニ察セザレバ一向此義理スミズ怪リタレ説ヲ捨テ神祕
ト号ル輩甚タ多シ扱ヒルコトハ和徳アル生レツキ故田舎へ
御代官トシテ民ヲ司ラシムルニハ相應ノ人ナリ巳ニ三歳ニ

ナル迄ト云ハ三年ノ変ニテハ毎シイワ迄モトニシテ也神代卷
コトノ久キヲ三歳ト書ク例下卷ニモ三歳ニ十九ニテ報聞
セズト云類ニ皆イワニテモト云云ニテ三ハ大地人ヲ兼クメ
敷イワ迄ニ限リ毎キ也脚猶不立是ヲ世上ノ神道者
コレヲケイサリノヤウニ説ハロシテハ神ヲ信スル如クニス、メ其ノ
實ハ神ヲ取ムルノ毎礼何カ此上ニ如シヤ猶ノ字ニ心ヲ可付
スベテ因ヲ司ル変立チカバクヤリ成ルアラク敷氣ニテハ国モ
ソコ子民モナヤムモノ也老子経ニ烹^{ハク}鮮ノ故変有テ民ヲ治ル
コトハ小^{ヒキ}魚ヲニルガ如クセヨトノ義ナリソレナリ、治メガレハ民

クダキフコ子テ乱シ易シ小魚ヲ烹ルモ其通り也足ノ不立ト
云ハ地ヲシヅメ^{ヲテ}落着^{フキ}テ物ニ動ゼズヌタカナン義故ニ足ノ字ヲ
不書脚ノ字ヲ書タリカケハシリヲセヌマリ、静ニ治ムベキ人
品故是ヲ天ノ盤椽樟船ニ載テトアリ盤モ椽樟モ不
朽不^レ變物ユノ大地ハ活物ニテ常ニ動ク氣ノ内ニアレトモ
人^ト駟^トテ不知之故ニ大地ヲ動物ニヨリ不^レ變不朽大地ハ海ニ
浮テアル故船ニタトヘ是ヲ天盤椽船ト云經兒尊御徳
地ヲ鎮ムベキ御代官ニ宜キヲ以テ是ヲ化シテクニモスベテ國
民其國相應ノ凡儀アリ善惡^ト是ヲ意^ト紀^トスレハ其ノ

國恨ヲ生じ或ハ擄亡スルコト有り是ハ武勇ノ人ヲワカイテハ可
改ハ改メテ道ニ叶フト見ユレ凡全体其國人ノ凡俗ニ不合故
害ヲ生ズ故ニ天ノイハラス船ニノセテ田舎ヲ鎮ルニ御心ノ
柔ナル御生レフキ故ニ自苦ヲ聞ニ不_レ合國凡ヲモ自_レ然下改ニ
ハ各別ニ_レズハソシナリニ治メテ行ヲ順_レ風ト書タリ其土地ノ
民ノ凡俗ニ從テ放テ捨テ政ヲトリテ窮屈ニ_レ無キヤリニ
治メテ_レ也クスヲ船ニ作ル_レ受和漢民ニ有_レイワレモ_レ鯨兒尊
ノ職分ニテ説タルモノト可知 ○次生_レ素戔嗚尊 スサノ
ヲト可訓即チ此書八岐大地ノ段ニキフテスガト云_レ又_レ素戔
ト書タリ是レスト訓_レシルナリ_レア_レハ訓_レヤリハ假名物ヲ謹按
トス_レシ古今和号集ノ序ニ假名ニテスサノヲト書タリ其勢
ヒツヨクスサマ_レジキオトコト云_レ又_レテスサマ_レジノオノコノ畧語也
通シテツサノヲト訓ハ書ヲ見_レ又_レノ吟味ノサキ故カマウノ神
名ヲダ_レ懼_レリ訓ム神道者世ニ多シ何_レ夫等ノ説取ニタラシ
此ノ神_レ生質アラクツヨフシテ上ヲシノギ已_レヲ立テ勢ヲ頼ム
_レ齊_レアリ其ウヘ男子_レシテ天子ノ位ニ即ズ天照大神ノ即位
坐ヲイキドナリ_レ恨_レニテ常ニ不平ノ情アリ夫故サ_レノ
雷_レ又_レヲモナシ_レウラト之_レ出雲ヘ下_レセ_レ五_レヒテ後善心ト成リ

ト書タリ是レスト訓_レシルナリ_レア_レハ訓_レヤリハ假名物ヲ謹按
トス_レシ古今和号集ノ序ニ假名ニテスサノヲト書タリ其勢
ヒツヨクスサマ_レジキオトコト云_レ又_レテスサマ_レジノオノコノ畧語也
通シテツサノヲト訓ハ書ヲ見_レ又_レノ吟味ノサキ故カマウノ神
名ヲダ_レ懼_レリ訓ム神道者世ニ多シ何_レ夫等ノ説取ニタラシ
此ノ神_レ生質アラクツヨフシテ上ヲシノギ已_レヲ立テ勢ヲ頼ム
_レ齊_レアリ其ウヘ男子_レシテ天子ノ位ニ即ズ天照大神ノ即位
坐ヲイキドナリ_レ恨_レニテ常ニ不平ノ情アリ夫故サ_レノ
雷_レ又_レヲモナシ_レウラト之_レ出雲ヘ下_レセ_レ五_レヒテ後善心ト成リ

予ら故其神徳ヲ後世ニ及ル事ナリ

○ 一書云神素戔嗚尊
速素戔嗚尊

此神有勇悍イサミタケク以安忍イブリエル 此神ト書クハ未代ヨリ書故今

日素戔嗚神ト祭ル神体御存生ニテ坐ス時ノ人呂ヲ云時ハ

勇悍ト云テ勇ハ物ニイサシ不退心アリイカニモ勇ノ字能

イサハイキサハムカフ又イキホヒサカシムカフ

キ字ナシト義ニ勇ム禮ニ勇ム又ハ忠勇ナド云時ハ此勇ノ

字至極ヨキまゝ又ハ之ノ強キ至ナリ極勇ト云時ハクタク

シク勇ム至ナリ前後ヲ不顧進ニ過テアラキ也勇悍

ト續ク氏ハ悍ハ勇ノ急成ルモノ也ト字書ニ注シテ此ス、

ニアラキ至急ナシバ其下ニミワ人民甚タ苦ニテ其急ナレセタ

ゲラシ一日七安キ心ナシ安忍ノ二字ハハシ成ル至リモ心ニ不感物

ヲ見ステ、今日ノ俗語ニテ之ク自然トムゴキ所アル氣象ト

云至ナリ叔素戔嗚ノ御徳ノ強クアラキ至リ神代上卷ノ

成ニ三段ノ書分ケアリ此所ニテハ勇悍ト書キ後チ天照大

神ト御對面ノ段ニテハ文字ヲ替テ雄健ト書是レヲセタ

ケキト訓セタリ勇悍ヨリ雄健ノ方ハ文字モ宜ク又大蛇

ノ段ニナリテハ武素戔嗚尊ト武ノ字ヲ以テアシラヒタリ

日じタテシト云訓ニテモ武ハ其夕ケキ徳ノ至リ也段々ト

惡心改リ行キ終ニハ其持前ノ強キ所ヨリ徳ニ入テ武神

ト崇メラシキヲ書ヤウセカヤウノ処一々心ヲ被^不身ハ神代卷

ハスミガタキモノナリ ○且常^{カフワ子ニ}以哭泣^{ナキイサスラス}爲^{ワサト}行^{ヒテ}故令^{ヒテ}國內^{ヒトクダ}人民

多以^{サハミモノテ}矢折^{アサフサニス} 且^ヨヲマタト不可^{コト}訓^{ヨム}カフト可^{コト}訓^{ヨム}中古以後ノ俗

崇者ソノウヘト訓セマタト訓セタレハ大俗^{オホノツキ}也字書ニヨシバ

且ノ字ソノウヘト云義理見ヘガタシ是ヲ花文^{ハナノモノ}ニテ云時ハ如是ト

ト云心ニワカフ文字ニテカフテソノウヘト云心ニハ不遺^{オシ}日本ニテ

古今集離別第八藤原ノコレヲカビ武藏ノスチニカリテハ時ニヲクリニアフサカヲユエトテ

七古ハ如是ト云心ニワカヒタレバコノ古今集ノ哥ニカフコヘテ

ヨミケンワラユキ古今集上月オモシロシトテ凡河内躬恒ガウテキタリケルヨメキノワラユキ

ワカレモスルカ逢坂ノ人タノメナ名ニコソアリケル此モ如是ワカシ

カフソレトウトクモ有カ十月影ノイタラヌ里モ有シト思ハ

モユクカト云義ニテサモソノウヘト云義理見ヘズ俗ニ且^{カフニタ}又ト書ク

ヨリ其俗ニ習ヒテ且又ノマタノ訓ヲトリテマタト訓セタリ或ハソノ

ウヘト訓^{ヨク}ス類多ニ當ラズシハラクト訓セマニトヨ^コセ事ニ依テ

ワシメントヨ^コス又ハ詩經十ト例モ有リ此所モ古文ナレバ上

受テ勇悍以安忍如是ナレ依テ常ニ不足ノ情不絶哭

ナキハナゲキノ中畧ナクナシダクタルノ畧イサワルハイキサツツル

泣ト云テ心ニ不滿ノ恨ミヲ以テ腹ノ立ツ時ナキイサワル程ニユ

喜怒憂悲思恐皆ナク

ラヘガタキヲ常ノ行^{ユキ}トシテ夫故國ノ内人民此人^{コノヒト}ニ司^{ツク}セテ

ハ辛^{カラキ}キ月^{ツキ}ニウヒ^{ユラ}矢^ヤト云テ天年ヲ不^レ及^ス苦^クニテ^{ワカ}若^ニ死^シレ^ト折^レト

云テ俗ニ云ムブオレガスルト云ガ如ク事ヲ半ニシテ死スルモノ

多^{オホク}カレベシトノ義ニテ矢折ノ二字ヲアカラサマト訓セタリ^{カラキ}

人民^{ヒト}草^{クサ}比^ヒ青山^{アヲヤマ}木^キ比^ヒス

サニ遇^ユ忍^ニナリ

○復^ヒ使^マ青山^{アヲヤマ}變^カ枯^カ

是^{コト}モクト^ハ物^{モノ}ニテタ

トハ其^ノ徳^ト金^ノ氣^ヲ殺^シ伐^スノ勢^ノ強^ク草木^ノモ金^ノ尅^ス木^ト枯^サシ

テ青山^ノモ枯^シ山^ニ變^スル所^{アリ}トノ云^フ立^テ其^ノア^ラキ人^ノ品^ヲ

説^クタ^ルモノセ依^テ之^ヲ中^古四^神ヲ四^季配^當ノ習^ト云^テ天^照大

神^ヲ春^ノ木^ノ徳^ニ准^ヘ一^ノ方^ノ物^ヲ及^テ生^スル御^徳ニ准^ヘ蛭^兒ヲ

夏^ノ火^ノ徳^ニ比^シテ能^ク大^地ヲ乾^シテ治^ルノ徳^{アリ}火^生土^ト云^テ

百^姓ハ地^ヲ以^テ家^業ヲ夕^ツルモノナレバ其^ノ百^姓ヲ生^スル憐^ミ

カノ三^歳ア^シ夕^ツガ^ルノ和^徳アリ然^レハ土^ヲ治^ル徳^ハ此^ノ神^ニ

兼^備ク^ル故^ニ一^ノ説^ト土^ノ徳^ノ神^トモ云^也土^ハ五^穀ヲ初^メ方^ノ物^ヲ

生^ジ別^テ土^生金^ト云^テ七^宝并^一ノ金^銀ヲモ土^ノ徳^{ヨリ}生^スル物

ナレバ後^世是^ヲ福^ノ神^ト号^シ都^ニ坐^シカ^ス田^舎ヲ巡^リテ治^メ

吾^ヲ故^エビスド^ノト俗^ニ呼^ナリ素^戔鳴^尊ハ秋^ノ金^ノ徳^ニ象^ス

リ草木^モ其^ノ葉^ヲキ^バ是^{ヨリ}落^散テ天^ノ霜^ヲフ^ラシ物

ヲ殺^スノ氣^象アリ月^ヲ尊^ヲ冬^ノ水^ノ徳^ニ象^リ冬^ハ能^ク

藏^リ静^シテ水^ノ氣^ハ一^ノ方^ノ物^ヲ及^テ生^スル木^ト春^ノ

天^照大^神ヲ夕^ツ育^ツル徳^ニ准^ヘテ四^季ニテ説^ク其^ノ一^ノ理^ヲ

アル^ト可^ク見^ル ○故^ニ其^ノ父^母二^ノ神^ト勅^ス素^戔鳴^尊汝^甚

無^道不^可以^テ君^臨宇^宙 汝^ヲナ^レト可^ク訓^イトハ

カゾイロハ如^ク母^傳 勅^ノ字^始出^ツ勅^書詔^書ハ非^ス宸^翰漢^文大^内記^書宸^者北^辰之^宮也^也

帝居比之然人多作震者悞也震者動也起也威也又卦名也地動云地震然世人震輸
不可訓物テ異国ノ書ニテモ日本ノ書ニテモワヅカノ音訓
震筆謂勅額勅筆可笑又云コトイリ御詞法也
ノ達ニテ字多ク失フコト多シトバ推敲ノ推オスト云時ハ

手ニテ擠オス変故タイノ音也廣勅他回ノ反シ也スイト讀
ハ非ナリ此類ヒヲ以テ音ニテモ訓ニテモ念ヲ入シテ可讀無道
ノ二字唯無道トナリハ不可見天下ヲ治ル其道節ト
ハ又人ト可見強スギタ人ハ物ノアバヒト云変ナク已ガカ
モフ通りニナリシテ是ヲ直ナリト思フコト有リ天下ヲ治ル
之ニ不及一家ヲ治ルニモナシゾノアバヒト云物無シバ其下
之人傷ミ苦ムモノナリ故ニ無道ノ二字アバヒキナシト訓シ

有為ウヰ古語拾遺

タムハアバヒナシトノ義ニテアバヒヲセザルマナリソレニテハ物
ニセマリテ天下ノ君臨スルマハ難シ君臨ノ二字音ニテ可讀
羞訓ニテ云ク二字カケテアルジタルベカラズト可訓君ヲ
キコト云ハ非和訓音ナリト云変前ニモ説クマナリ

○固當遠遍之於根國矣遂逐之 此固ハ都ニ心ヲ不殘

心ヲカタメテ正ニ遠ク王化ノ及ヒガタキ北国ノ陰氣ノ勝タム
地ニ趣テ陰氣ガナニアラク物ヲ凌ク国ヲ汝カ生質ノ勇
ヲ以テ從ヘ治メヨト遂ニ是ヲ陰氣勝チタム今ノ出雲ノ京
遺ハサレ北方ハ子ノ方陰氣ノ国故根ノ国ト号ヌ御追於

ナサリ、委ニハ非ズ多クノ御子ノ中ヨリ勝レタニ此四神ヲ
ソレクニ役訓ナサリ、支今日ノ上ニテ之々天照大神ハ天
子月ら尊ハ撰政蛭兒尊ハ御国奉行故仁ヲ以テナフ
クシ氏ソシニモ背ク者アリハ其才サヘノ為ニ素戔鳴尊ヲ將
軍トシテ是ヲ誡メ吾ノ人矣多ノ良藥ナレモ附子ノ毒ヲ得
サレバ病ヲ治シガタキ支アリ素戔鳴尊ノ武勇ニ過クニモ
一ツノ神徳ナリサレバ源氏物語ヲ作ル時常ノ巻ニ品定
ト云フ有テ多ノ女ノ品ヲ定メ分ケタレハ此所ノ文ヲカリテ書
タレモ也ヨクノ日本書紀ヲ考ヘテ源氏物語一部ヲ作りタレ

四辻宮源氏物語河海抄ニ出タリ

バトテ紫式部ヲ日本紀ノ局ト御堂ノ関白道長公ノ呼也
五七ニ支ニ登端ノ希ニ人ニ通り也此章ハ四神化職ノ章ト可
見四神出生ノ章ト俗崇者題セシハ悞リ也



